

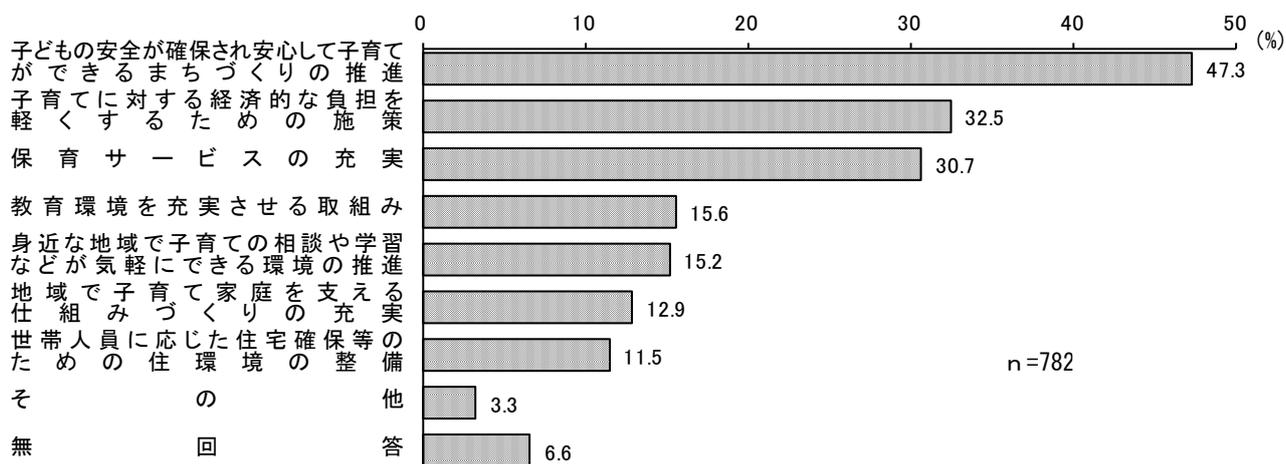
5. 福祉社会

(1) 子育てに必要な施策

◇「子どもの安全が確保され安心して子育てができるまちづくりの推進」が4割台半ばを超える

問11 「子育てするならふっさ」と実感できる社会環境づくりのためには、どのような施策が必要だと思いますか。次の中から**2つまで**選んでください。

＜図表5-1＞子育てに必要な施策（複数回答）

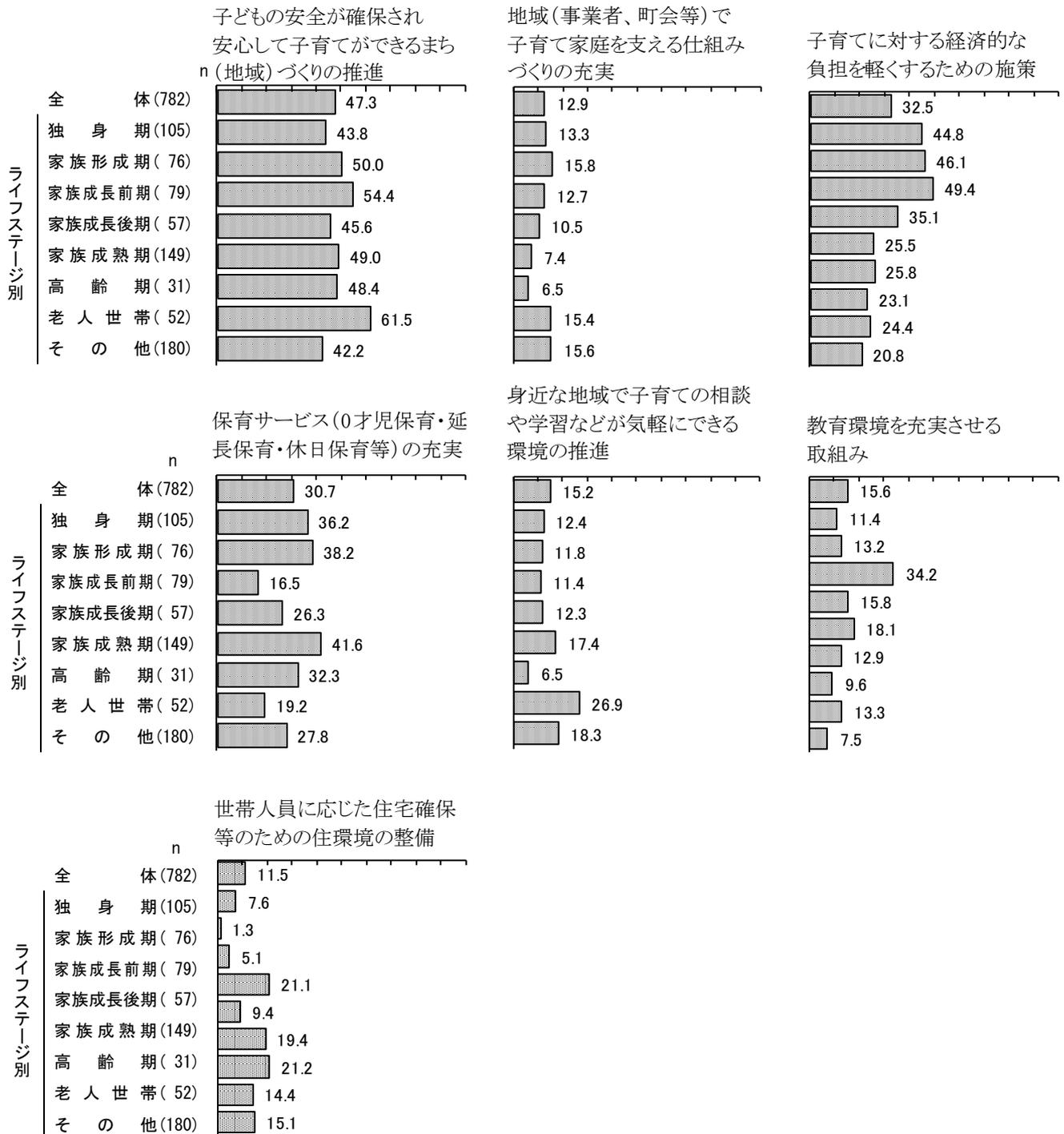


子育てに必要な施策について尋ねたところ、「子どもの安全が確保され安心して子育てができるまちづくりの推進」（47.3%）が最も高く、4割台半ばを超えている。次いで「子育てに対する経済的な負担を軽くするための施策」（32.5%）が3割強、「保育サービスの充実」（30.7%）が約3割となっている。

（図表5-1）

ライフステージ別でみると、「子どもの安全が確保され安心して子育てができるまちづくりの推進」は、老人世帯（61.5%）で最も高く、次いで、家族成長前期（54.4%）、家族形成期（50.0%）の順で高く、それぞれ5割以上を占めている。「子育てに対する経済的な負担を軽くするための施策」は、独身期から家族成長前期までのライフステージで高く、4割以上を占めている。（図表5-2）

＜図表5-2＞子どもの健全育成のための社会環境／ライフステージ別

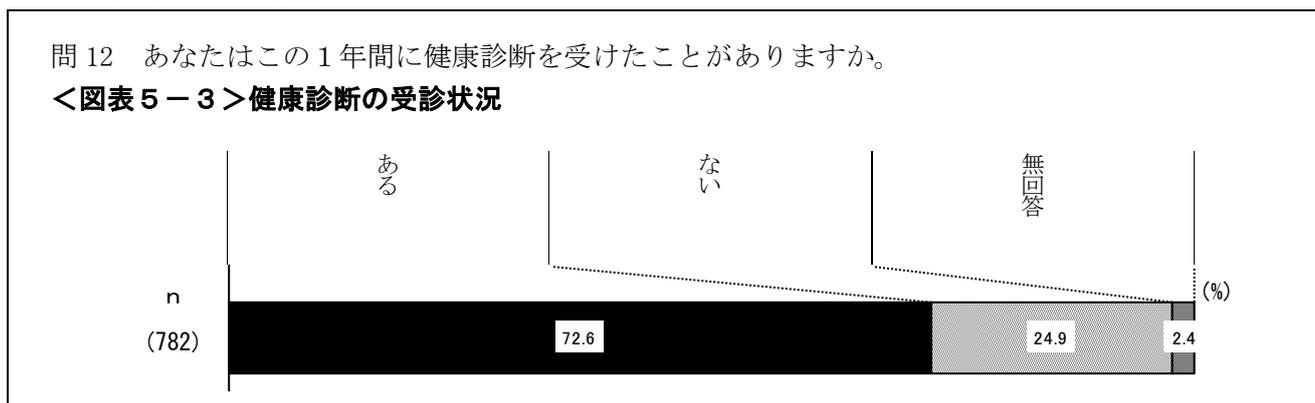


(2) 健康診断の受診状況

◇「ある」が7割強

問12 あなたはこの1年間に健康診断を受けたことがありますか。

＜図表5-3＞健康診断の受診状況

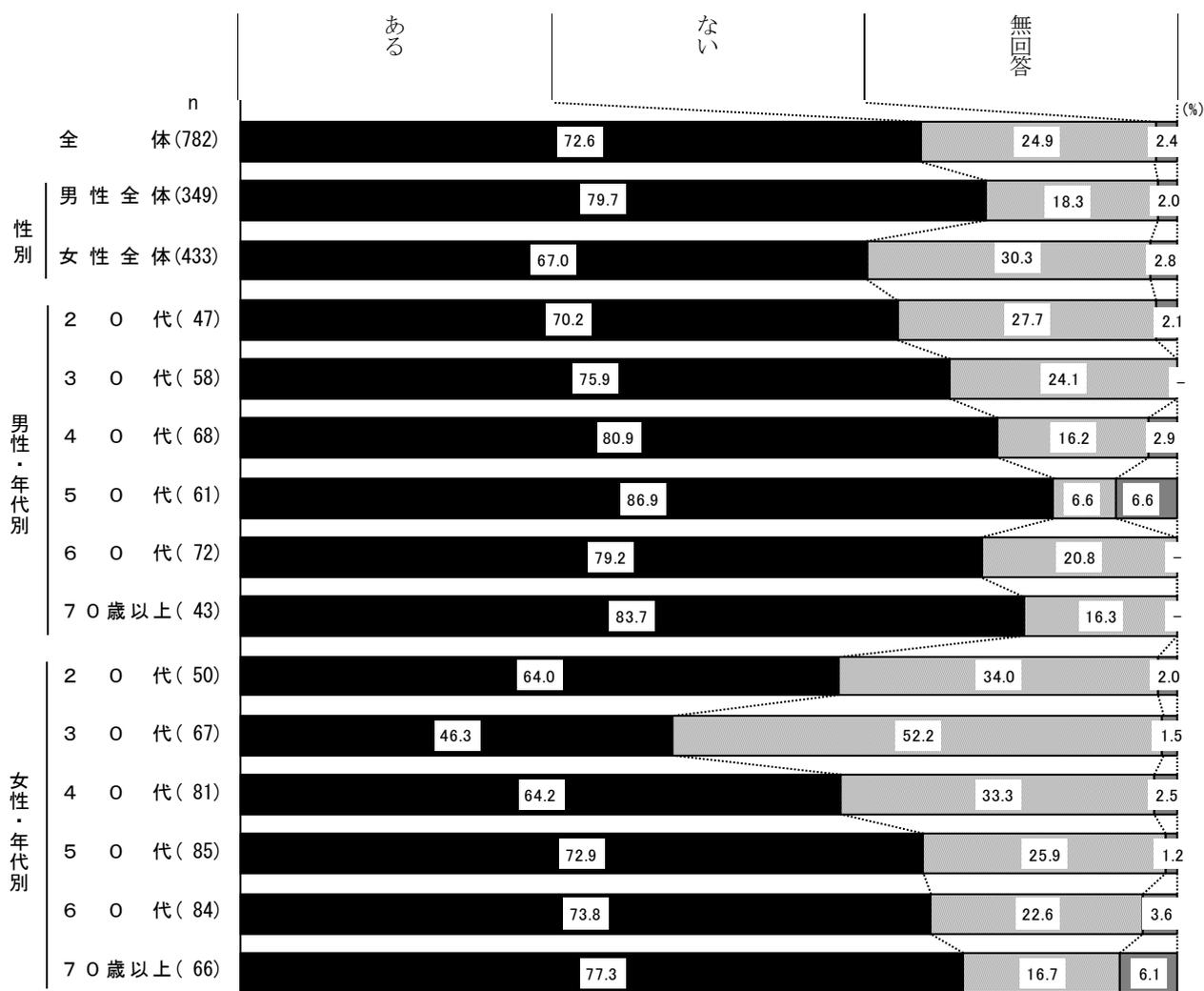


健康診断の受診状況について尋ねたところ、「ある」(72.6%)が7割強となっている。(図表5-3)

性別でみると、「ある」は男性全体(79.7%)で女性全体(67.0%)より12.7ポイント上回っている。

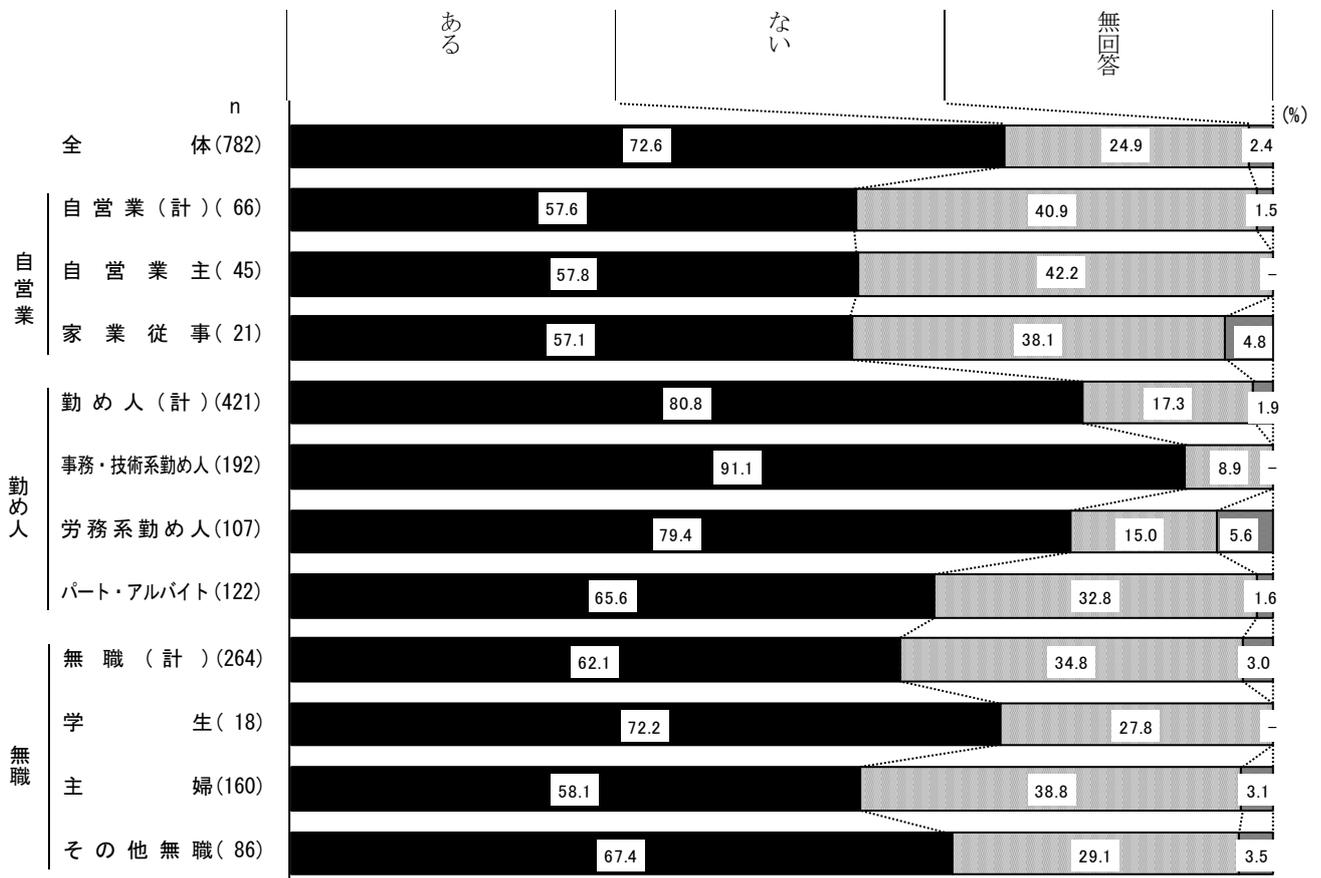
性・年代別でみると、「ある」は、男女ともに年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられ、男性の40代、50代、70歳以上の年代で8割以上となっている。女性では、40代以下の年代で「ない」が3割以上となっており、特に30代(52.2%)で5割強と高くなっている。(図表5-4)

＜図表5-4＞健康診断の受診状況／性別、性・年代別



職業別でみると、「ある」は勤め人（計）（80.8%）で約8割を占めるのに対して、自営業（計）（57.6%）で5割台半ばを超え、無職（計）（62.1%）で6割強に留まっている。一方、「ない」は自営業主（42.2%）で最も高く、次いで、主婦（38.8%）、家業従事（38.1%）、パート・アルバイト（32.8%）の順となっている。（図表5-5）

＜図表5-5＞健康診断の受診状況／職業別

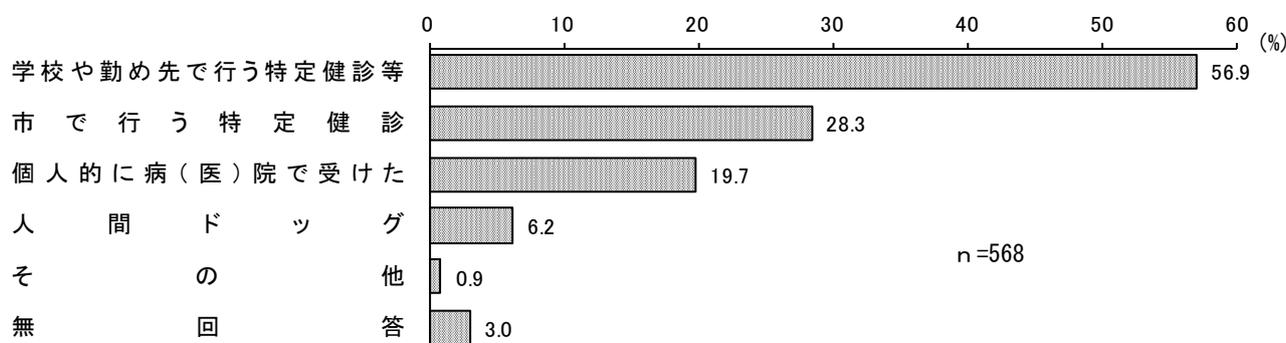


(3) 健康診断の受診場所

◇「学校や勤め先で行う特定健診等」が5割台半ばを超える

問12-2 問12で「受けたことがある」を選んだ方にお伺いします。その健康診断はどちらでお受けになりましたか。次の中から**あてはまるものを全て**選んでください。

＜図表5-6＞健康診断の受診場所（複数回答）

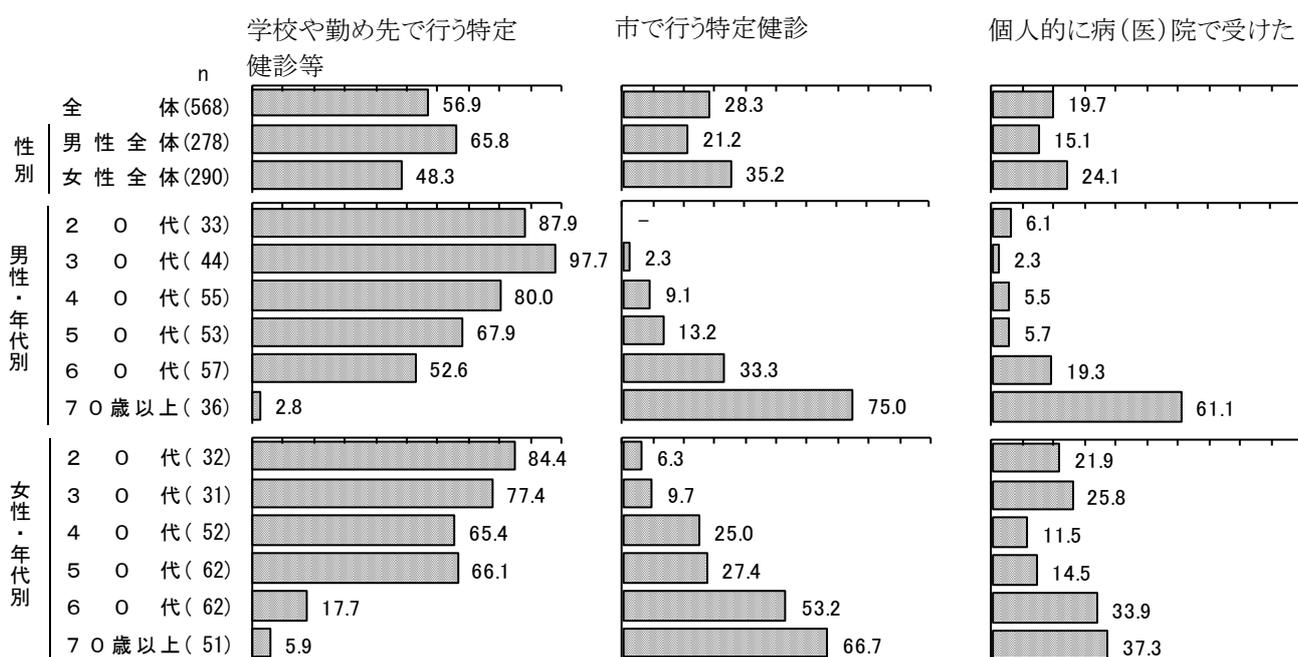


問12で「受けたことがある」を選んだ方に、健康診断の受診場所について尋ねたところ、「学校や勤め先で行う特定健診等」(56.9%)が最も高く、5割台半ばを超える。次いで、「市で行う特定健診」(28.3%)、「個人的に病(医)院で受けた」(19.7%)、「人間ドッグ」(6.2%)の順となっている。(図表5-6)

上位3項目について性別で見ると、「学校や勤め先で行う特定健診等」は男性全体(65.8%)が女性全体(48.3%)を17.5ポイント上回り、逆に「市で行う特定健診」、「個人的に病(医)院で受けた」では女性全体が男性全体を上回っている。

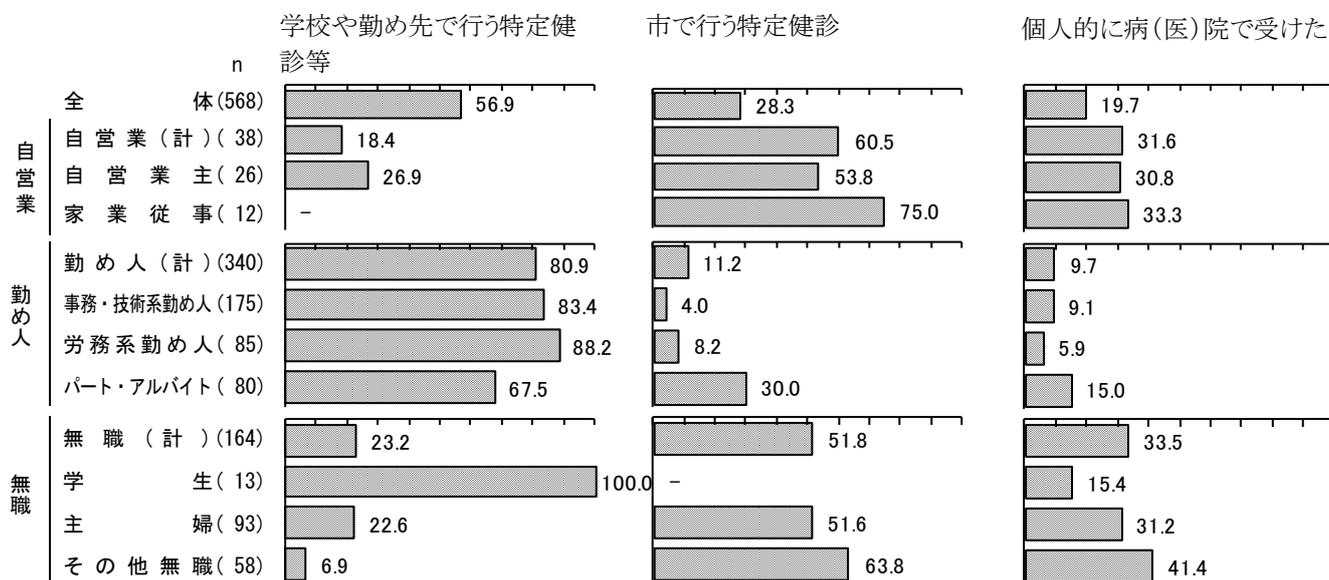
性・年代別で見ると、「学校や勤め先で行う特定健診等」は男性の30代(97.7%)で最も高く、9割台半ばを超え、また、男性の20代と40代、女性の20代でも8割以上を占めている。「市で行う特定健診」は男女ともに、70歳以上が最も高く、年代が高い層になるにつれて割合が上昇している。(図表5-7)

＜図表5-7＞健康診断の受診状況／性別、性・年代別（上位3項目）



上位3項目について職業別で見ると、「学校や勤め先で行う特定健診等」は勤め人（計）（80.9%）で高く、事務・技術系勤め人（83.4%）、労務系勤め人（88.2%）で8割以上となっている。「市で行う特定健診」は自営業（60.5%）、無職（計）（51.8%）で高くなっている。（図表5-8）

＜図表5-8＞健康診断の受診状況／職業別（上位3項目）

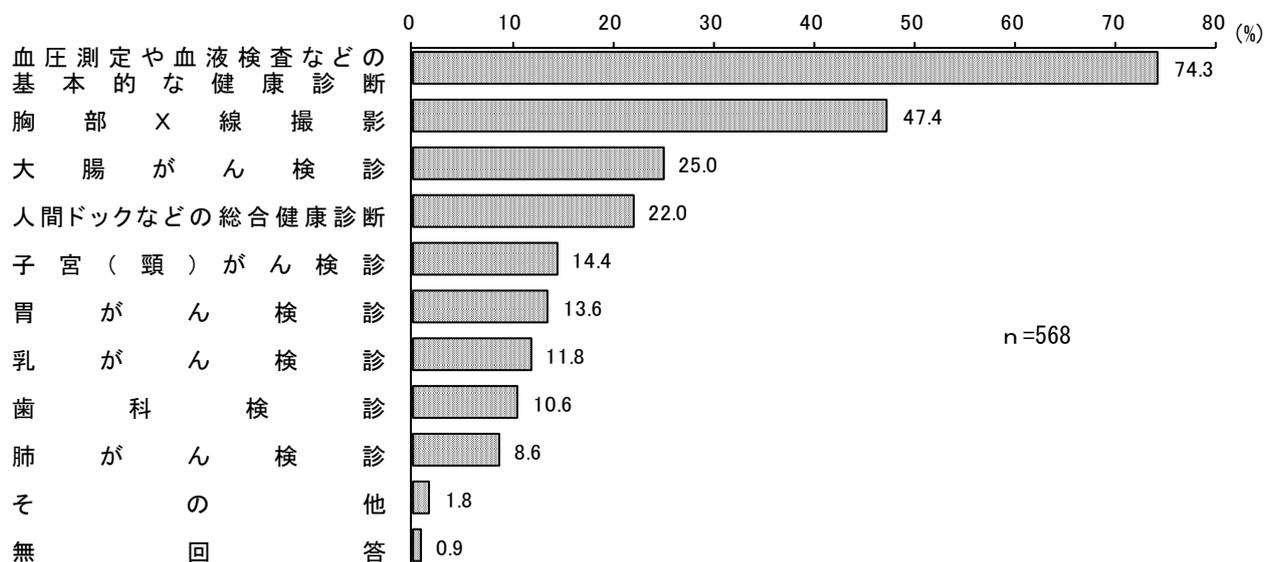


(4) 受診した健康診断の内容

◇「**血圧測定や血液検査などの基本的な健康診断**」が7割台半ば近く

問12-3 問12で「**受けたことがある**」を選んだ方にお伺いします。あなたがお受けになった健康診断は、どのようなものでしたか。次の中から**あてはまるものを全て**選んでください。

＜図表5-9＞受診した健康診断の内容（複数回答）



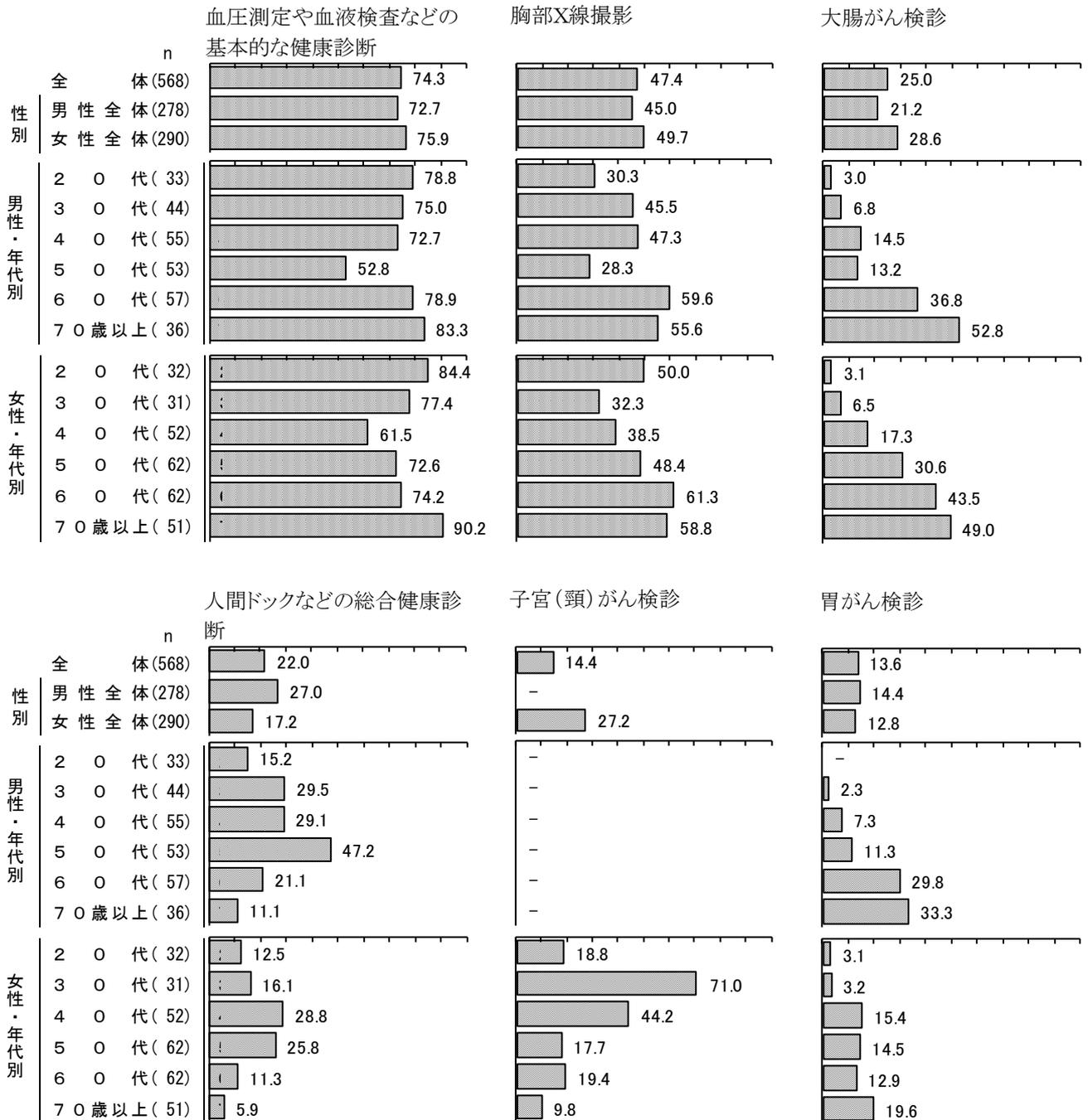
問12で「**受けたことがある**」を選んだ方に、受診した健康診断の内容について尋ねたところ、「**血圧測定や血液検査などの基本的な健康診断**」（74.3%）が最も高く、7割台半ば近くとなっている。次いで、「**胸部X線撮影**」（47.4%）、「**大腸がん検診**」（25.0%）、「**人間ドックなどの総合健康診断**」（22.0%）の順に高くなっている。（図表5-9）

上位6項目について性別でみると、「人間ドックなどの総合健康診断」は男性全体（27.0%）が女性全体（17.2%）より9.8ポイント上回っている。

性・年代別でみると、「血圧測定や血液検査などの基本的な健康診断」は男性の50代、女性の40代を除く全ての年代で7割以上と高くなっている。「大腸がん検診」は男女ともに年代が高い層になるにつれて高くなる傾向がみられ、「子宮（頸）がん検診」は女性の30代（71.0%）で7割強と高くなっている。

（図表5-10）

＜図表5-10＞受診した健康診断の内容／性別、性・年代別（上位6項目）

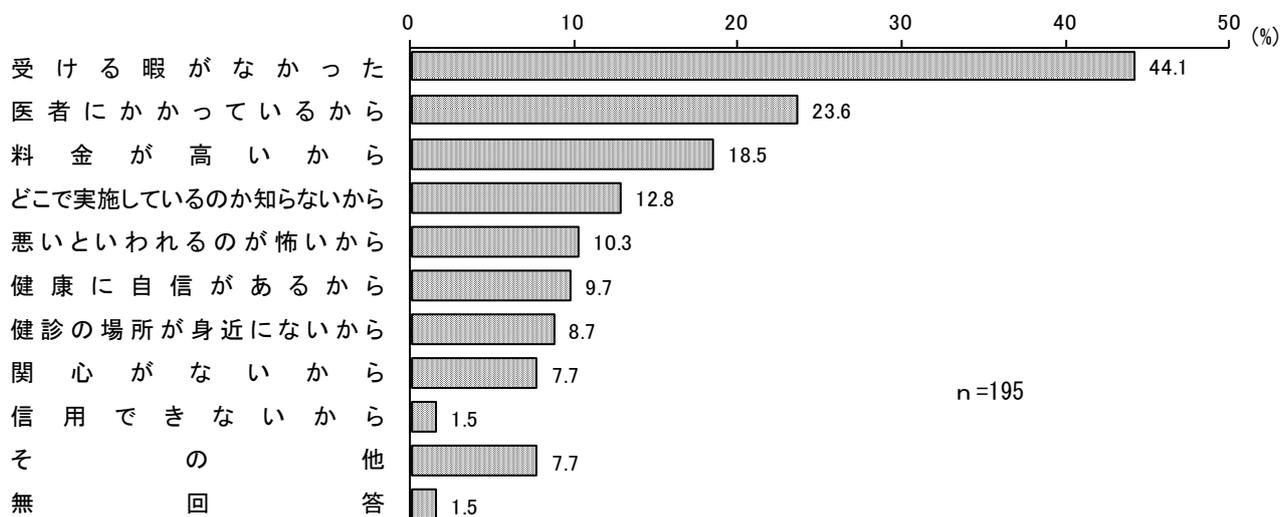


(5) 健康診断を受けなかった理由

◇「受ける暇がなかった」が4割台半ば近く

問12-4 問12で「受けたことはない」を選んだ方にお伺いします。お受けにならなかった理由は何ですか。次の中から**あてはまるものを全て**選んでください。

＜図表5-11＞健康診断を受けなかった理由（複数回答）

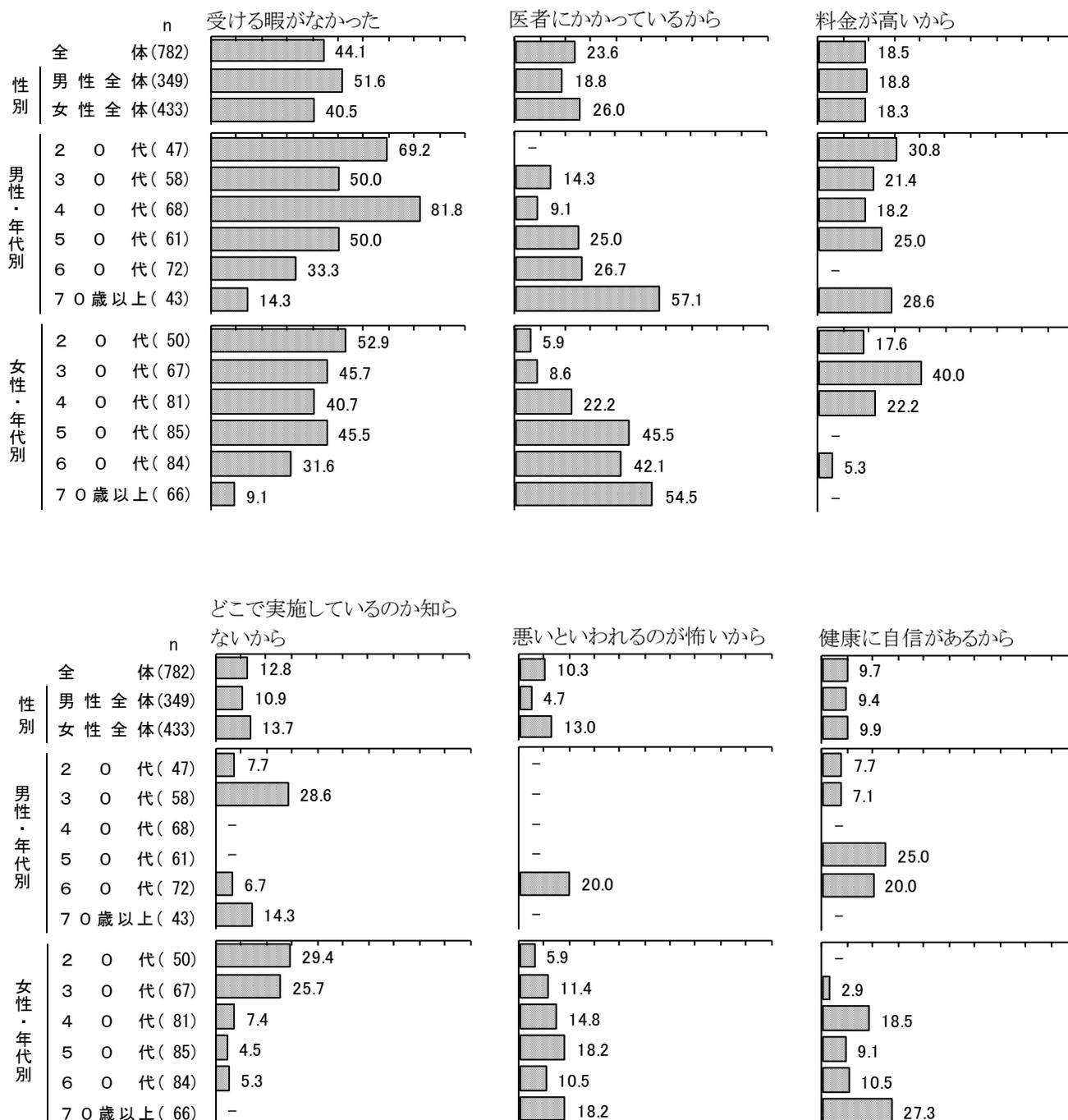


問12で「受けたことはない」を選んだ方に、健康診断を受けなかった理由について尋ねたところ、「受ける暇がなかった」(44.1%)が最も高く、4割台半ば近くとなっている。次いで「医者にかかっているから」(23.6%)、「料金が安いから」(18.5%)の順となっている。(図表5-11)

上位6項目について性別でみると、「受ける暇がなかった」は男性全体(51.6%)が女性全体(40.5%)より11.1ポイント上回っている。逆に、「医者にかかっているから」、「悪いといわれるのが怖いから」は女性全体が男性全体を7~8ポイント上回っている。

性・年代別でみると、「受ける暇がなかった」は、男性の40代(81.8%)で最も高く、男性の50代以下の年代と女性の20代で5割以上となっている。「医者にかかっているから」は、男女ともに年代が高い層になるにつれて高くなる傾向がみられ、「どこで実施しているのか知らないから」は男性の30代、女性の20代、30代で2割以上となっている。(図表5-12)

＜図表5-12＞健康診断を受けなかった理由／性別、性・年代別(上位6項目)

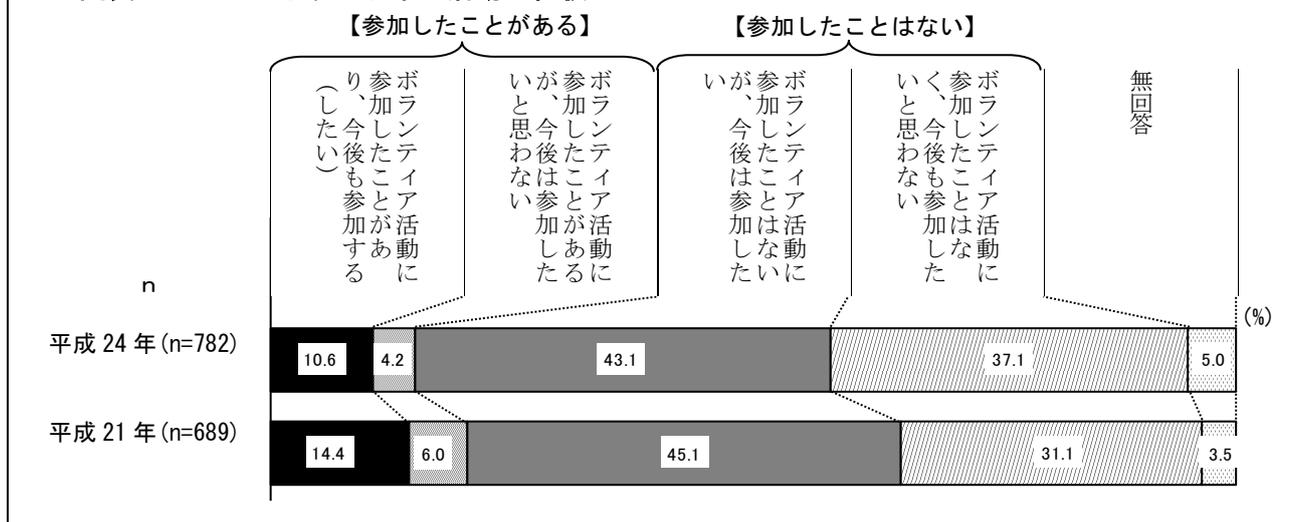


(6) ボランティア活動の経験

◇【参加したことがある】が1割台半ば近く、【参加したことがない】が約8割

問13 お年寄りや障害者の人々のために地域でボランティア活動が行われていますが、ボランティア活動についてあてはまるものを次の中から1つだけ選んでください。

＜図表5-13＞ボランティア活動の経験

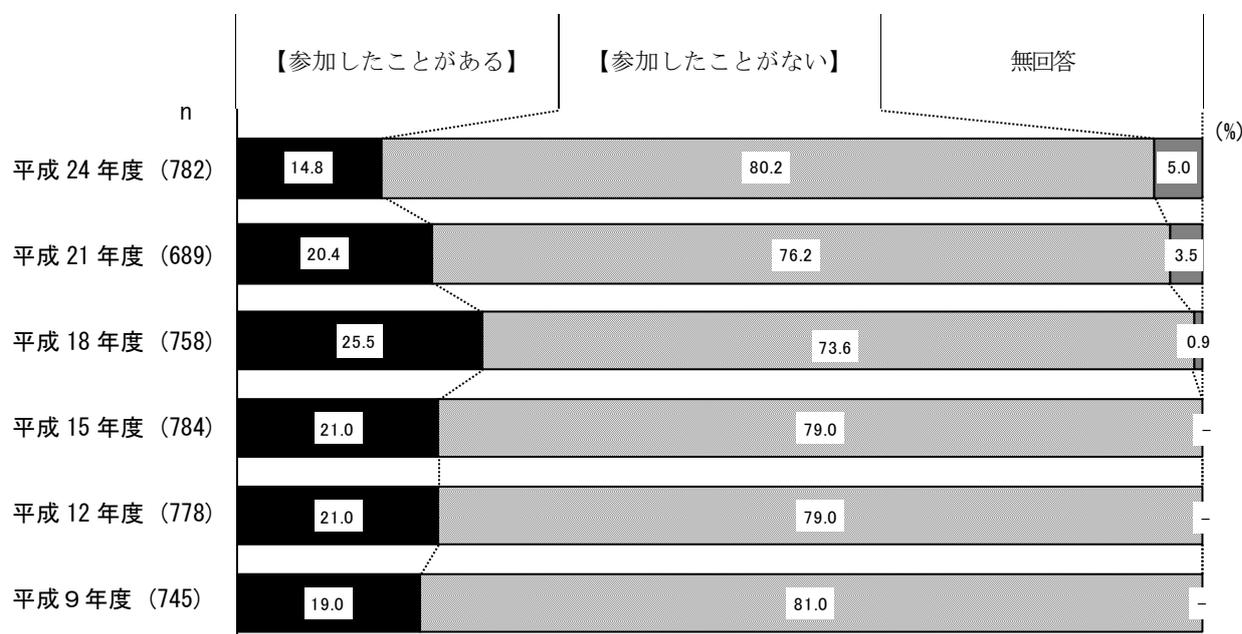


ボランティア活動の経験について尋ねたところ、「ボランティア活動に参加したことがあり、今後も参加する（したい）」と、「ボランティア活動に参加したことがあるが、今後は参加したいと思わない」を合わせた【参加したことがある】（14.8%）が1割代半ば近く、「ボランティア活動に参加したことはないが、今後は参加したい」と、「ボランティア活動に参加したことはなく、今後も参加したいと思わない」を合わせた【参加したことがない】（80.2%）が約8割となっている。（図表5-13）

平成21年度の調査結果と比較すると、【参加したことがある】が5ポイント以上減少している。（図表5-13）

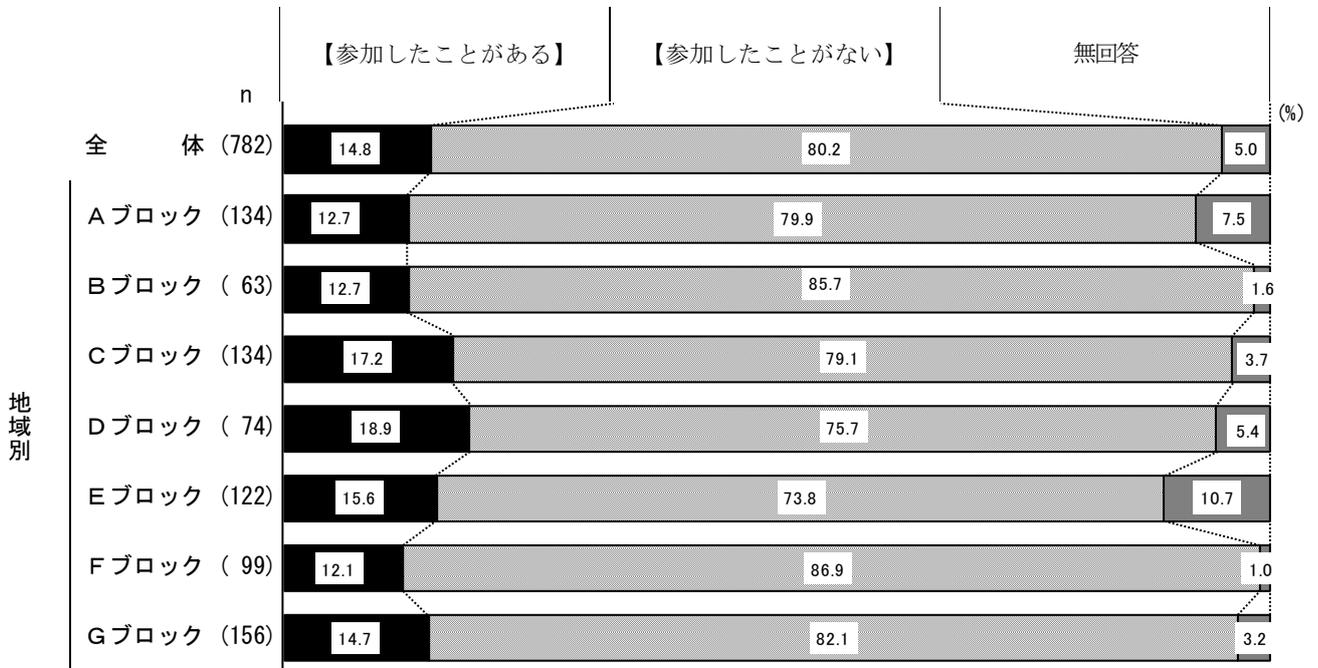
平成9年度からの調査結果の過年度推移をみると、ボランティアに【参加したことがある】人は、平成18年度まで増加する傾向であったが、平成21年度以降は減少に転じている。（図表5-14）

＜図表5-14＞ボランティア活動の経験／過年度推移



地域別でみると、【参加したことがある】はDブロック（18.9%）で最も高く、次いでCブロック（17.2%）となっている。一方、【参加したことがない】は全てのブロックで7割以上を占めている。（図表5-15）

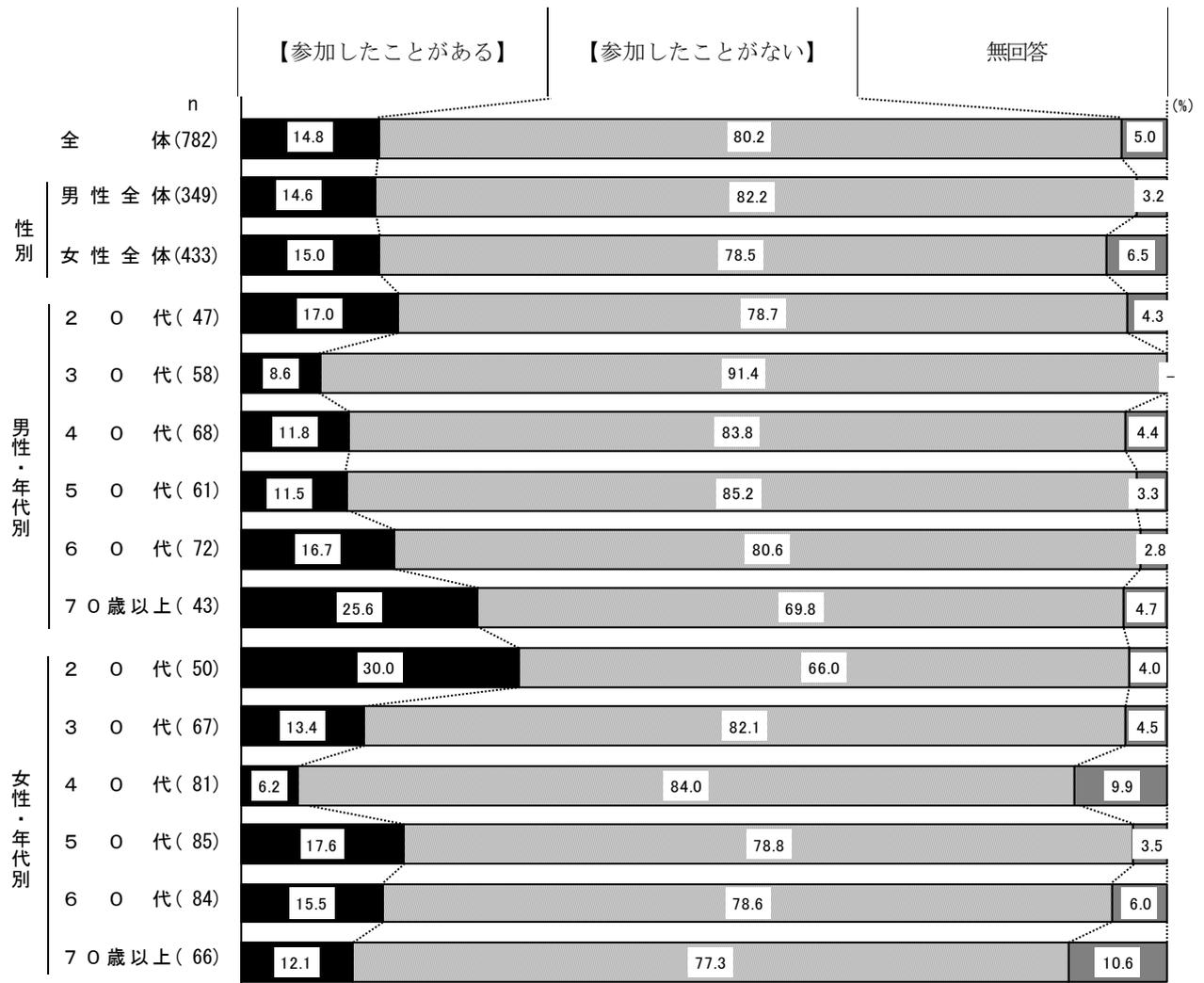
＜図表5-15＞ボランティア活動の経験／地域別



性別でみると、男女で大きな差異はみられない。

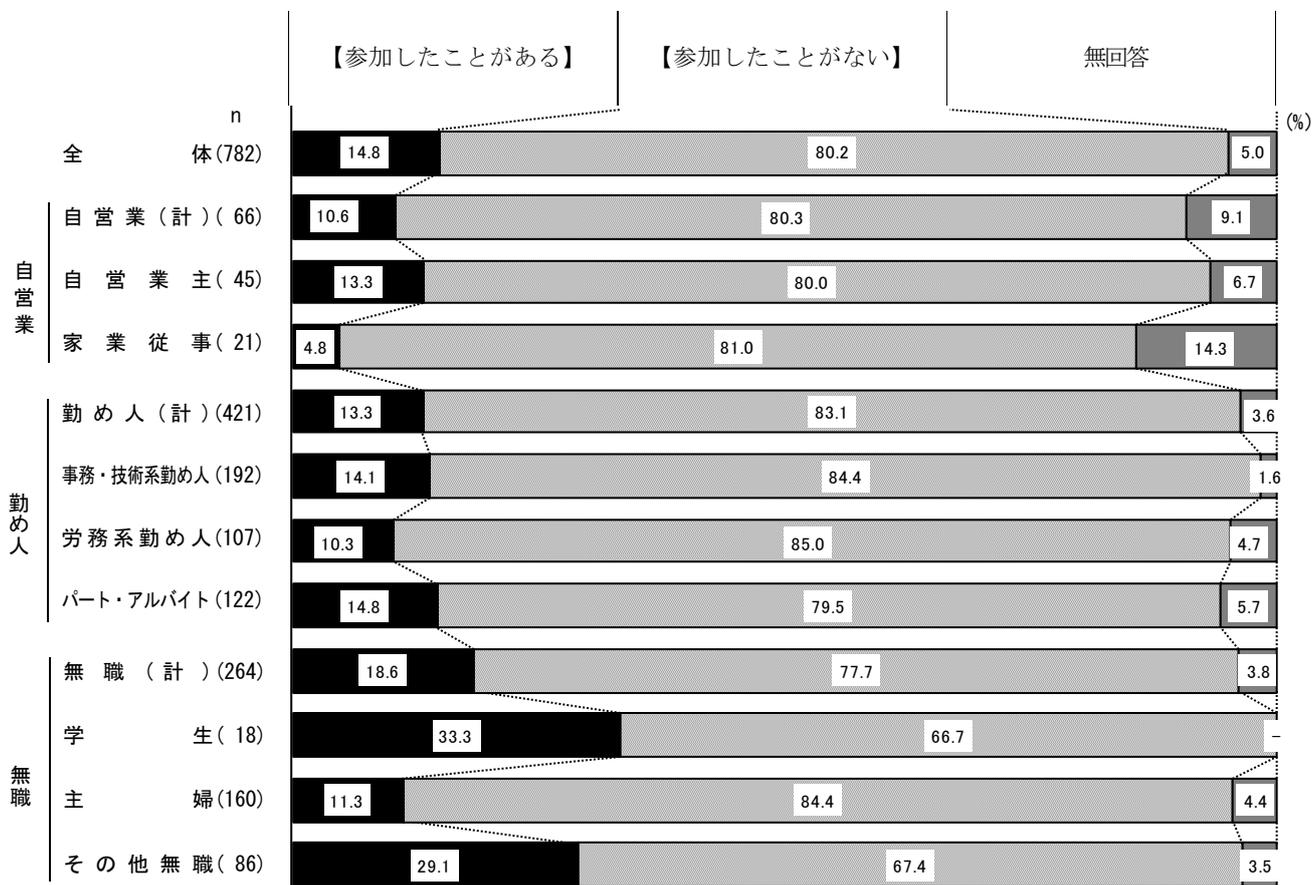
性・年代別でみると、【参加したことがある】は女性の20代(30.0%)で最も高く、次いで男性の70歳以上(25.6%)となっている。一方、【参加したことがない】は男性の30代(91.4%)で最も高く、女性の20代、男性の70歳以上を除く全ての年代で7割以上となっている。(図表5-16)

＜図表5-16＞ボランティア活動の経験／性別、性・年代別



職業別でみると、【参加したことがある】は学生（33.3%）で最も高く、3割台半ば近くとなっており、次いでその他無職（29.1%）となっている。その他の職業では、2割以下に留まっている。（図表5－17）

＜図表5－17＞ボランティア活動の経験／職業別

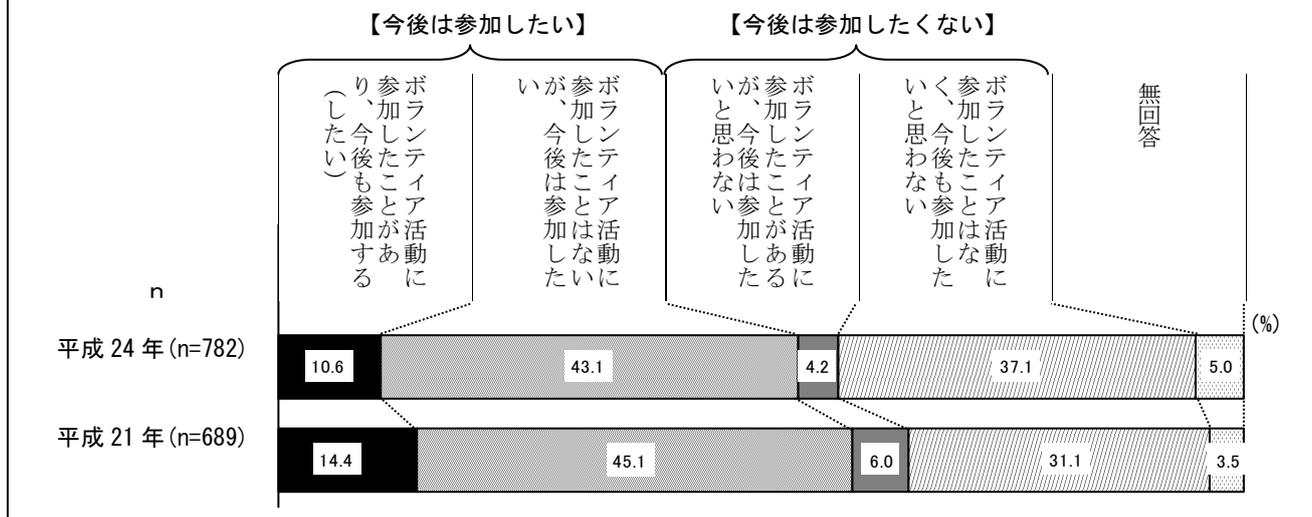


(7) ボランティア活動の参加意向

◇【今後は参加したい】が5割台半ば近く、【今後は参加したくない】が4割強

問 13 お年寄りや障害者の人々のために地域でボランティア活動が行われていますが、ボランティア活動についてあてはまるものを次の中から1つだけ選んでください。

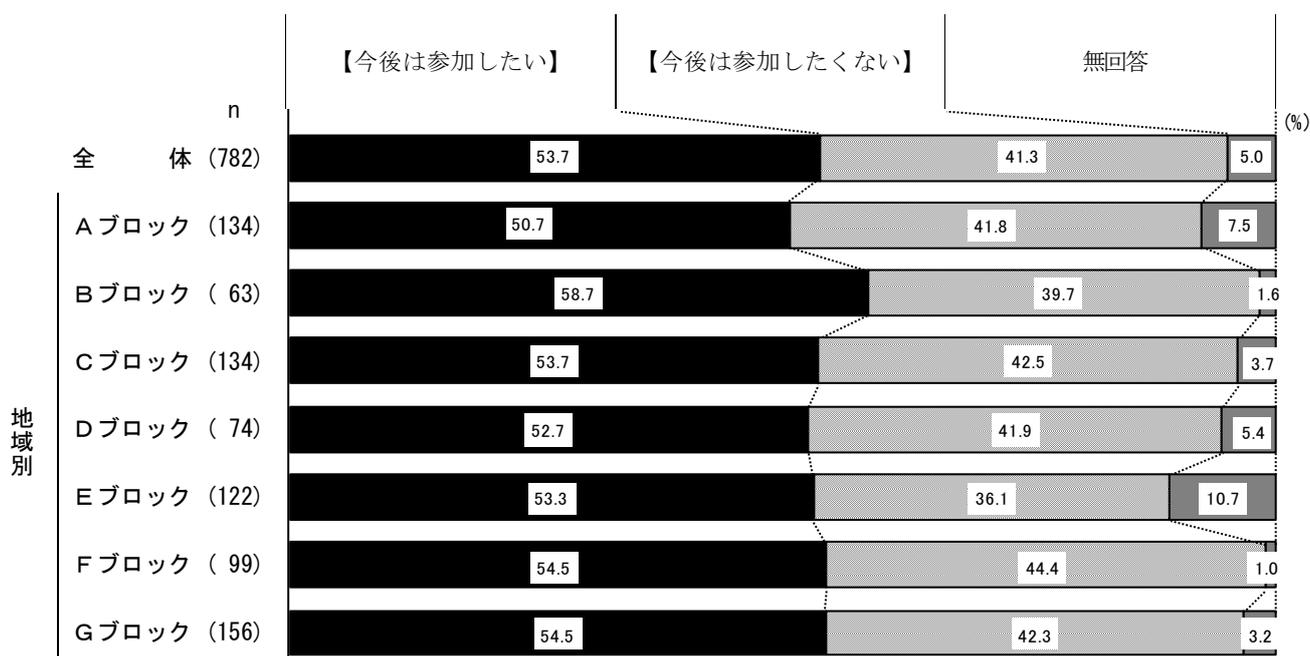
＜図表5-18＞ボランティア活動の参加意向



ボランティア活動の参加意向について尋ねたところ、「ボランティア活動に参加したことがあり、今後も参加する（したい）」と、「ボランティア活動に参加したことはないが、今後は参加したい」を合わせた【今後は参加したい】（53.7%）が5割台半ば近く、「ボランティア活動に参加したことはあるが、今後は参加したいと思わない」と、「ボランティア活動に参加したことはなく、今後も参加したいと思わない」を合わせた【今後は参加したくない】（41.3%）が4割強となっている。（図表5-18）

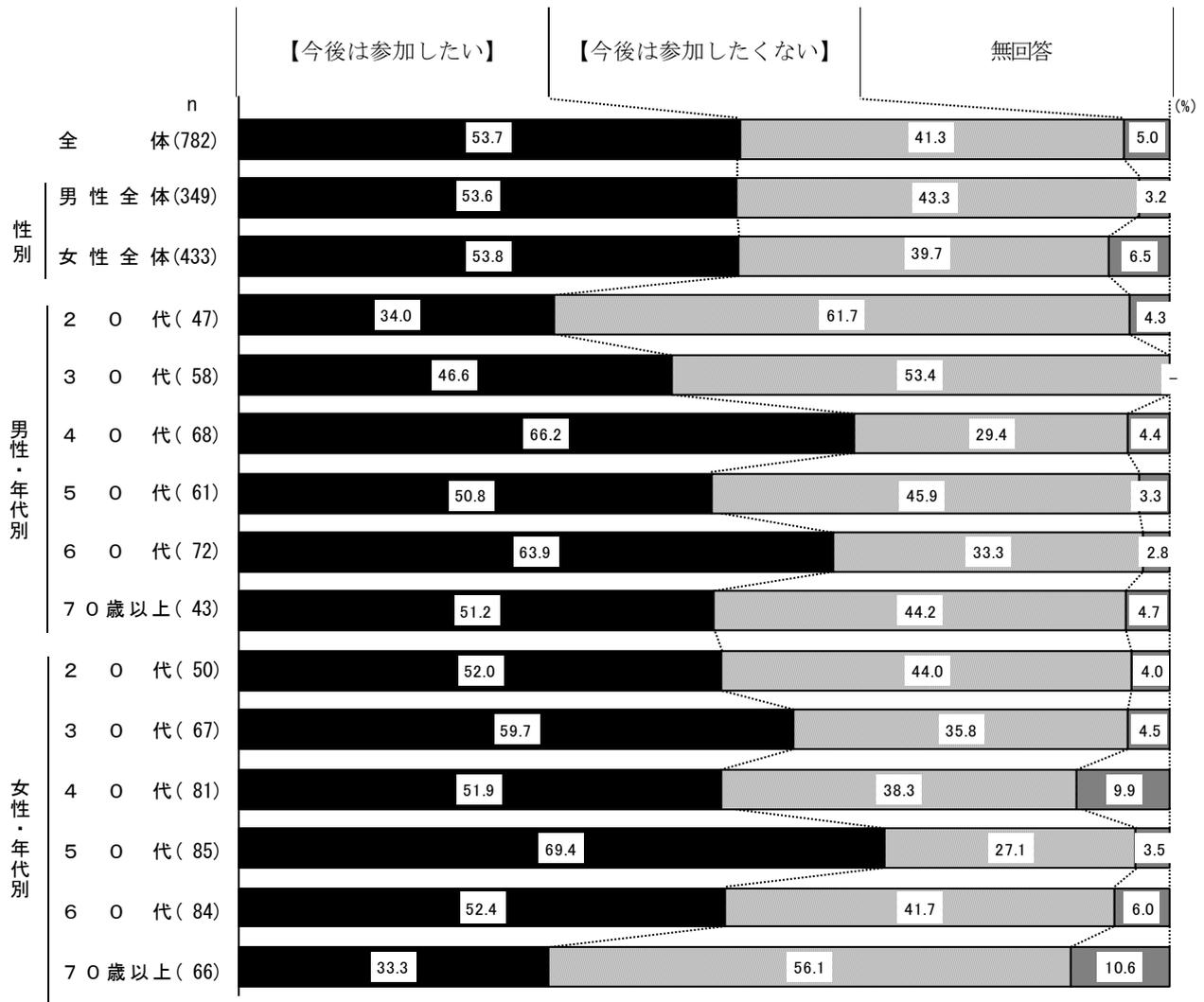
地域別でみると、【今後は参加したい】はBブロック（58.7%）で最も高く、6割近くとなっており、全てのブロックで5割以上を占めている。（図表5-19）

＜図表5-19＞ボランティア活動の参加意向／地域別



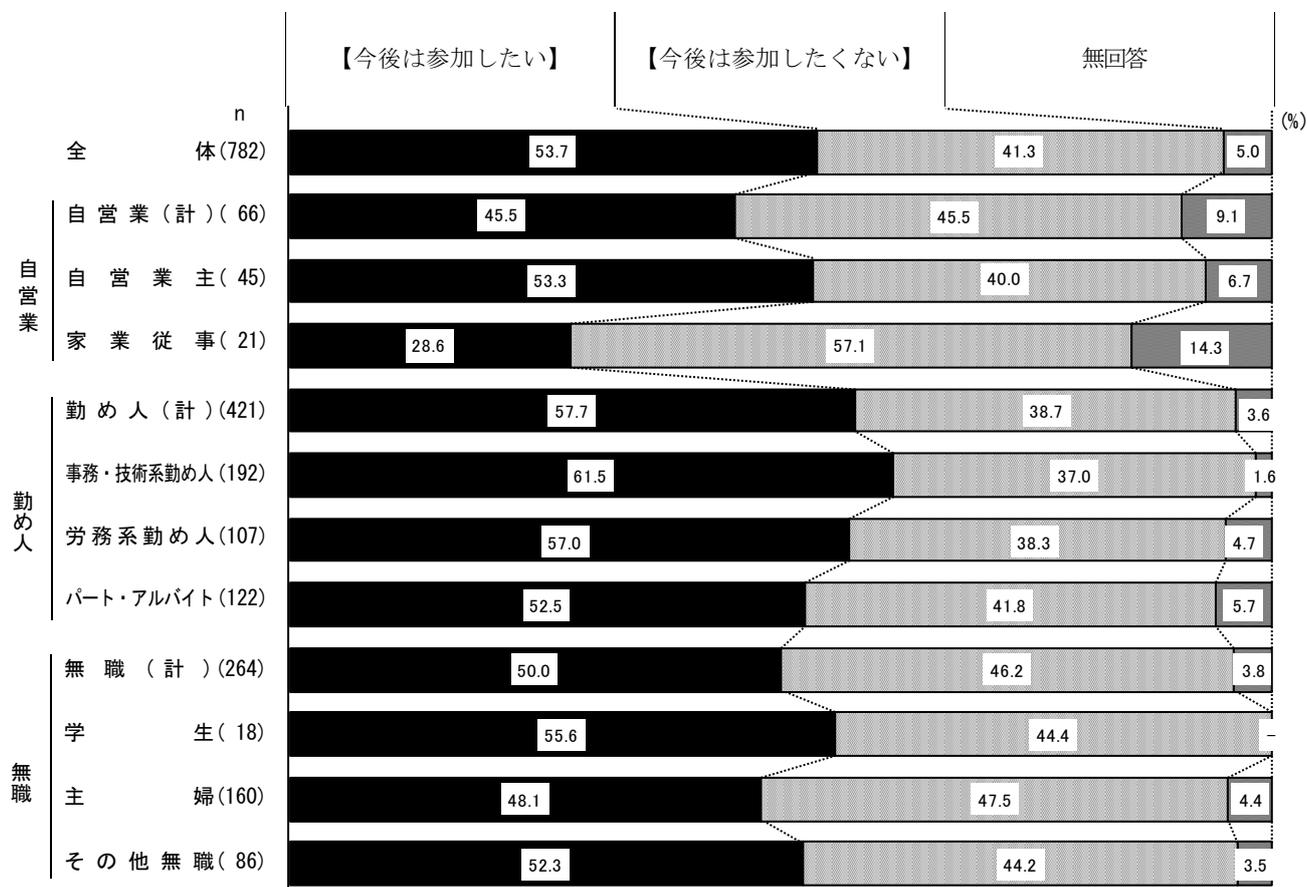
性別でみると、【今後は参加したい】が男女ともに5割台半ば近くであり、大きな差異はみられない。
 性・年代別でみると、【今後は参加したい】は女性の50代(69.4%)男性の40代(66.2%)、60代(63.9%)の順に高く、6割以上となっている。一方、【今後は参加したくない】は、男性の20代(61.7%)で最も高く、次いで女性の70歳以上(56.1%)、男性の30代(53.4%)の順となっている。(図表5-20)

＜図表5-20＞ボランティア活動の参加意向／性別、性・年代別



職業別でみると、【今後は参加したい】は、勤め人（計）（57.7%）となっており、このうち事務・技術系勤め人（61.5%）で6割強となっている。一方、【今後は参加したくない】は家業従事（57.1%）で最も高く、5割台半ばを超えている。（図表5-21）

＜図表5-21＞ボランティア活動の参加意向／職業別

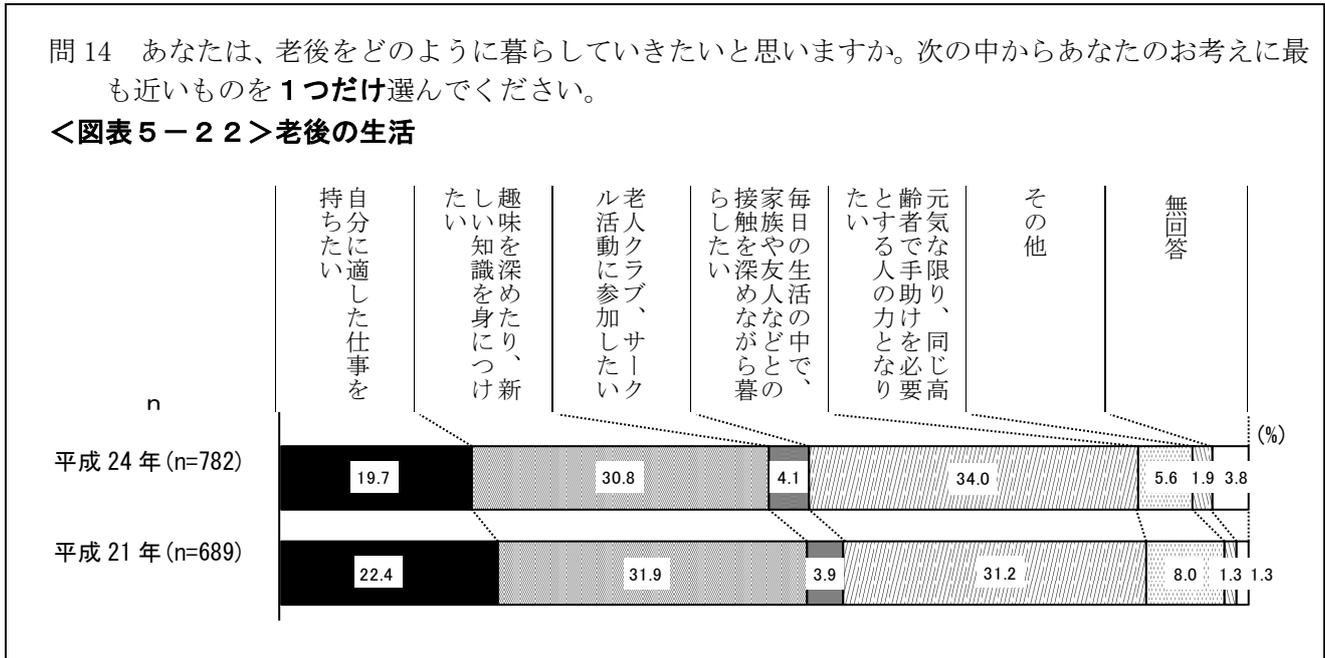


(8) 老後の生活

◇「毎日の生活の中で、家族や友人などとの接触を深めながら暮らしたい」、「趣味を深めたり、新しい知識を身につけたい」が3割台

問 14 あなたは、老後をどのように暮らしていきたいと思いますか。次の中からあなたのお考えに最も近いものを1つだけ選んでください。

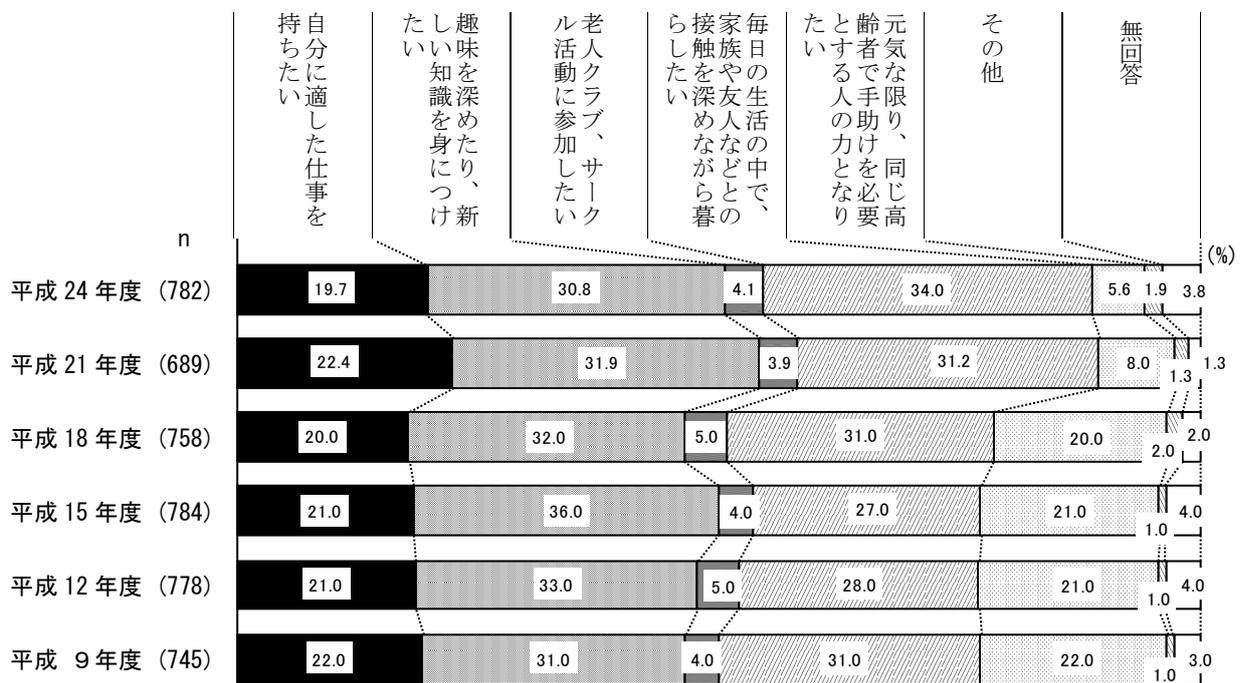
<図表5-22> 老後の生活



老後の生活について尋ねたところ、「毎日の生活の中で、家族や友人などとの接触を深めながら暮らしたい」(34.0%)が最も高く、3割台半ば近くとなっており、次いで「趣味を深めたり、新しい知識を身につけたい」(30.8%)が約3割、「自分に適した仕事をもちたい」(19.7%)が2割弱の順となっている。(図表5-22)

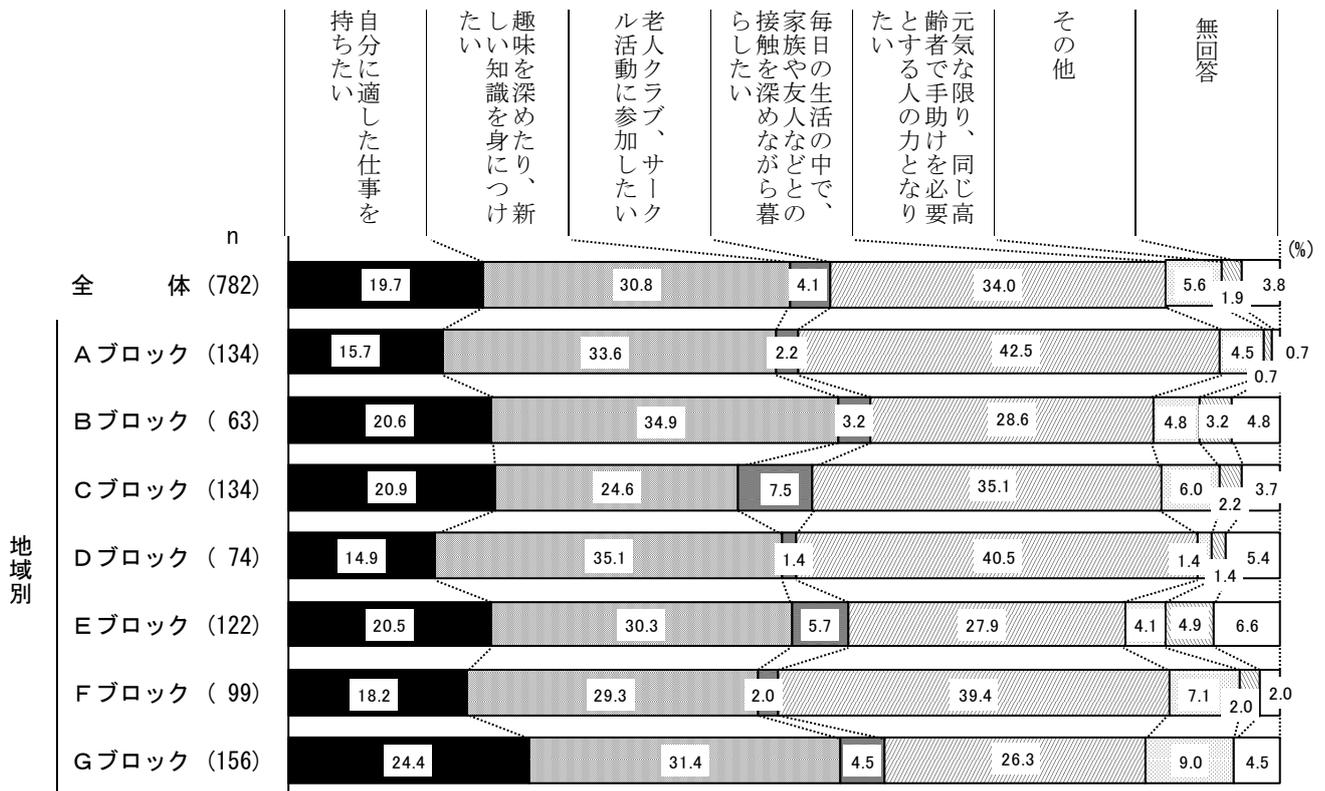
過年度調査の推移をみると、「毎日の生活の中で、家族や友人などとの接触を深めながら暮らしたい」が平成12年度以降増加傾向にあり、前回調査と比較すると2.8ポイント増加している。「趣味を深めたり、新しい知識を身につけたい」は、1.1ポイントの減少となっているが長期にみると3割以上を保っている。(図表5-23)

<図表5-23> 老後の生活/過年度推移



地域別でみると、「毎日の生活の中で、家族や友人などとの接触を深めながら暮らしたい」は、Aブロック（42.5%）で最も高く、次いで、Dブロック（40.5%）で4割以上となっている。「趣味を深めたり、新しい知識を身につけたい」は、Dブロック（35.1%）で最も高く、次いでBブロック（34.9%）の順となっている。「自分に適した仕事を持ちたい」は、Gブロック（24.4%）で最も高く、次いで、Cブロック（20.9%）、Bブロック（20.6%）、Eブロック（20.5%）の順で、それぞれ約2割を占めている。（図表5-24）

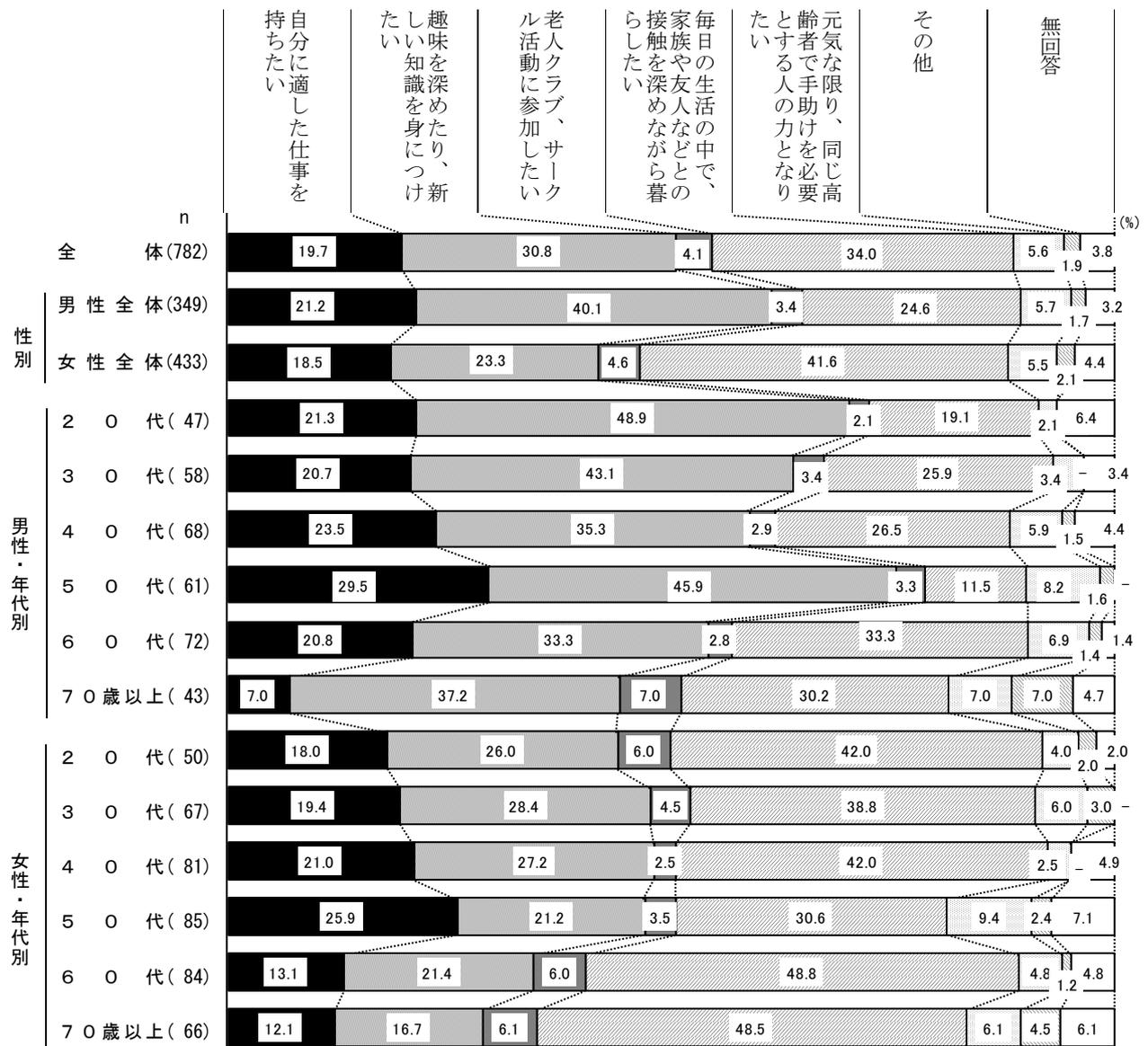
＜図表5-24＞老後の生活／地域別



性別でみると、「毎日の生活の中で、家族や友人などとの接触を深めながら暮らしたい」は女性全体（41.6%）が男性全体（24.6%）より17.0ポイント上回り、逆に、「趣味を深めたり、新しい知識を身につけたい」は男性全体（40.1%）が女性全体（23.3%）より16.8ポイント上回っている。

性・年代別でみると、「毎日の生活の中で、家族や友人などとの接触を深めながら暮らしたい」は女性の60代（48.8%）、70歳以上（48.5%）で5割近くと高い。「趣味を深めたり、新しい知識を身につけたい」は男性の20代（48.9%）で最も高く、次いで男性の50代（45.9%）となり、また、女性では年代が若い層になるにつれて高くなっている。（図表5-25）

＜図表5-25＞老後の生活／性別、性・年代別

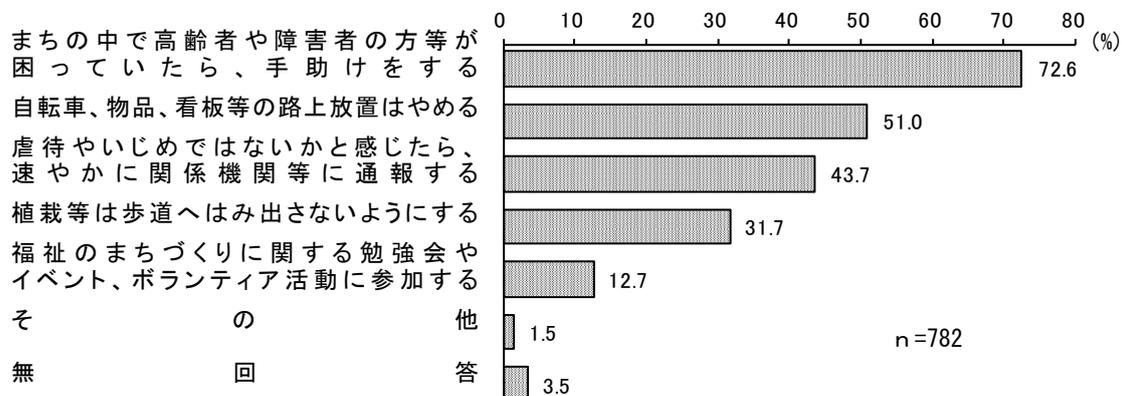


(9) バリアフリーのまち実現のための取り組み

◇「まちの中で高齢者や障害者の方等が困っていたら、手助けをする」が7割強

問 15 福祉のまちづくりを実現するためには、行政、事業者、市民が協働して取り組む必要がありますが、あなたが実施している取り組み、または取り組むことができるものは何ですか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

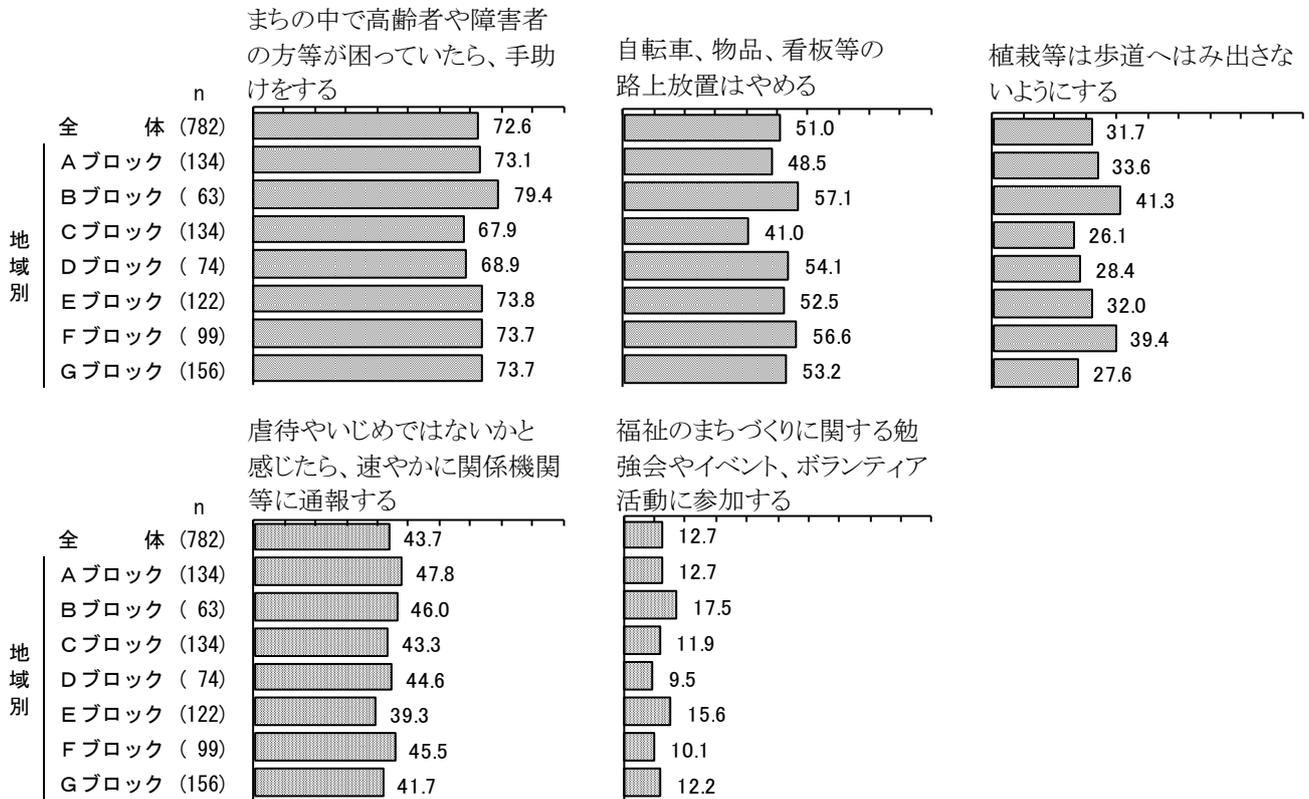
＜図表5-26＞バリアフリーのまち実現のための取り組み（複数回答）



バリアフリーのまち実現のための取り組みについて尋ねたところ、「まちの中で高齢者や障害者の方等が困っていたら、手助けをする」(72.6%)が7割強で最も高く、次いで、「自転車、物品、看板等の路上放置はやめる」(51.0%)、「虐待やいじめではないかと感じたら、速やかに関係機関等に通報する」(43.7%)の順となっている。(図表5-26)

地域別でみると、「まちの中で高齢者や障害者の方等が困っていたら、手助けをする」はBブロック（79.4%）で最も高く、次いで、Eブロック（73.8%）、Fブロック（73.7%）、Gブロック（73.7%）、Aブロック（73.1%）で、いずれも7割以上を占めるとともに各ブロックでの最も高い取り組みとなっている。「自転車、物品、看板等の路上放置はやめる」はBブロック（57.1%）で最も高い。（図表5-27）

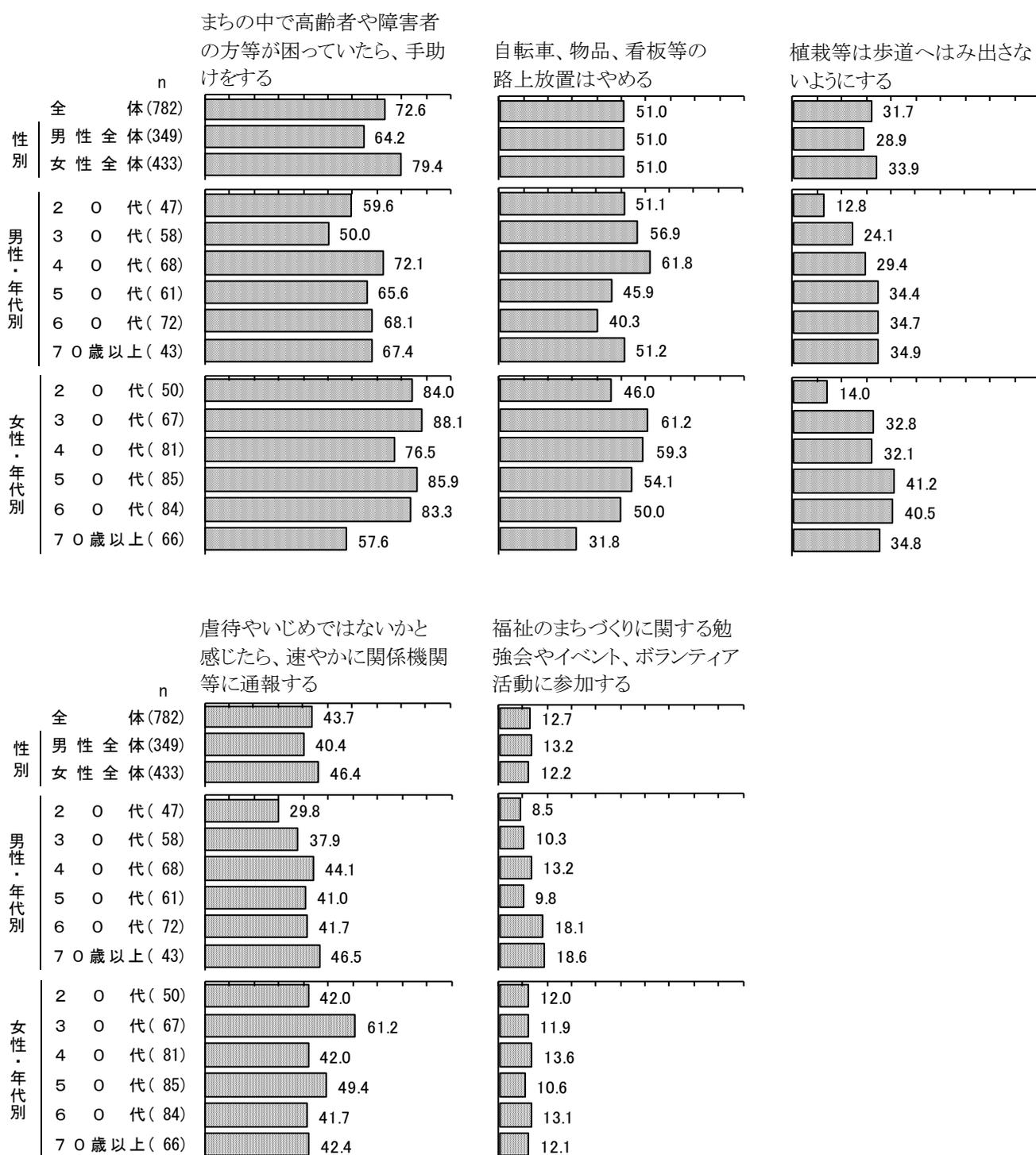
＜図表5-27＞バリアフリーのまち実現のための取り組み／地域別



性別でみると、「まちの中で高齢者や障害者の方等が困っていたら、手助けをする」は女性全体（79.4%）が男性全体（64.2%）より15.2ポイント上回っている。また、「虐待やいじめではないかと感じたら、速やかに関係機関等に通報する」「植栽等は歩道へはみ出さないようにする」についても、女性全体が男性全体を上回っている。

性・年代別でみると、「まちの中で高齢者や障害者の方等が困っていたら、手助けをする」は、女性の30代（88.1%）で最も高く、70歳以上を除く女性の各年代で7割以上を占めている。「虐待やいじめではないかと感じたら、速やかに関係機関等に通報する」は、女性の30代（61.2%）で6割強と高くなっている。（図表5-28）

＜図表5-28＞バリアフリーのまち実現のための取り組み／性別、性・年代別



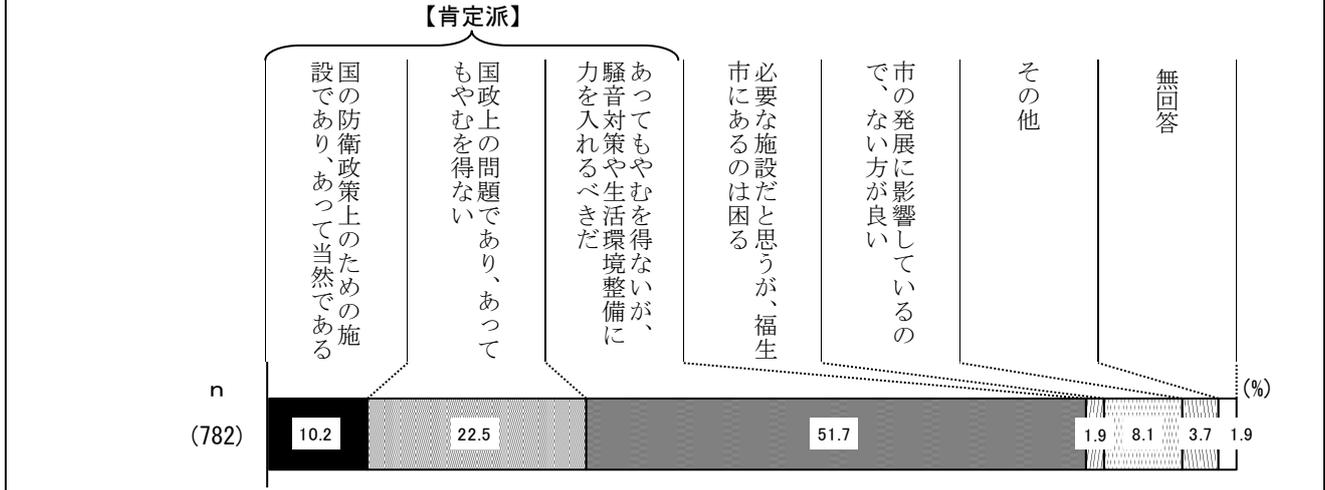
6. 横田基地

(1) 横田基地の賛否

◇「あってもやむを得ないが、騒音対策や生活環境整備に力を入れるべきだ」が5割強

問 16 横田基地について、日頃あなたが考えていることに最も近いものを、次の中から **1つだけ**選んでください。

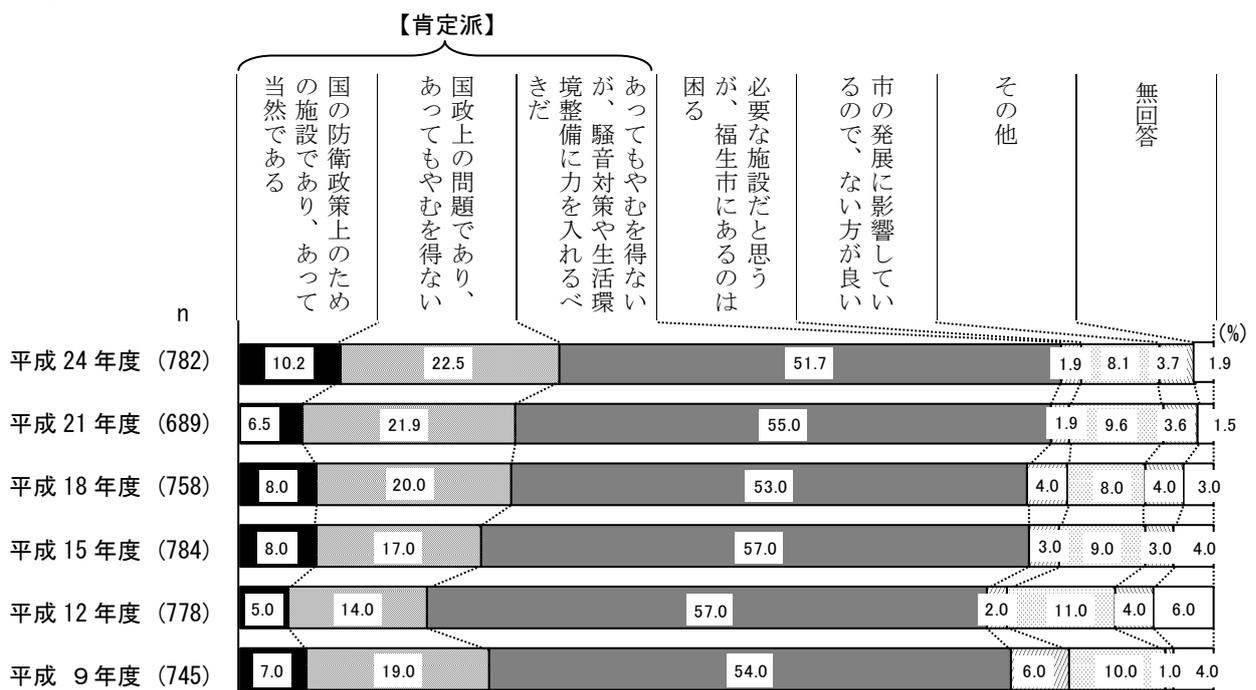
＜図表 6-1＞横田基地の賛否



横田基地の賛否について尋ねたところ、「あってもやむを得ないが、騒音対策や生活環境整備に力を入れるべきだ」(51.7%)が最も高く、5割強となっている。これに「国政上の問題であり、あつてもやむを得ない」(22.5%)、「国の防衛政策上のための施設であり、あつて当然である」(10.2%)を合わせた【肯定派】(84.4%)は8割台半ば近くとなっている。(図表 6-1)

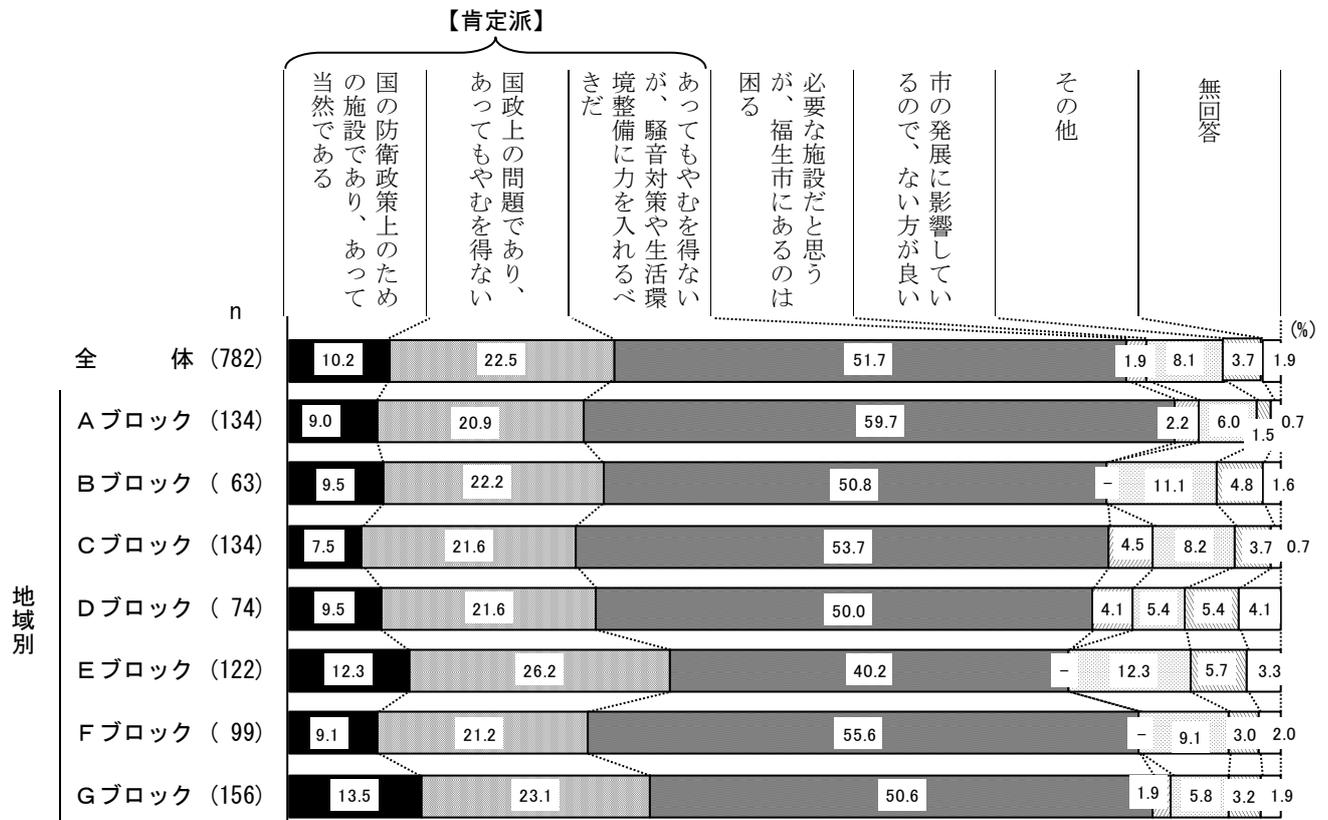
過年度調査の推移をみると、【肯定派】が平成12年度以降、微増傾向にあり、このうち、「国の防衛政策上のための施設であり、あつて当然である」「国政上の問題であり、あつて当然である」が長期にわたって微増傾向にある。(図表 6-2)

＜図表 6-2＞横田基地の賛否／過年度推移



地域別でみると、【肯定派】はAブロック（89.6%）で最も高く、9割弱となっており、Eブロックを除く全てのブロックで8割以上となっている。（図表6-3）

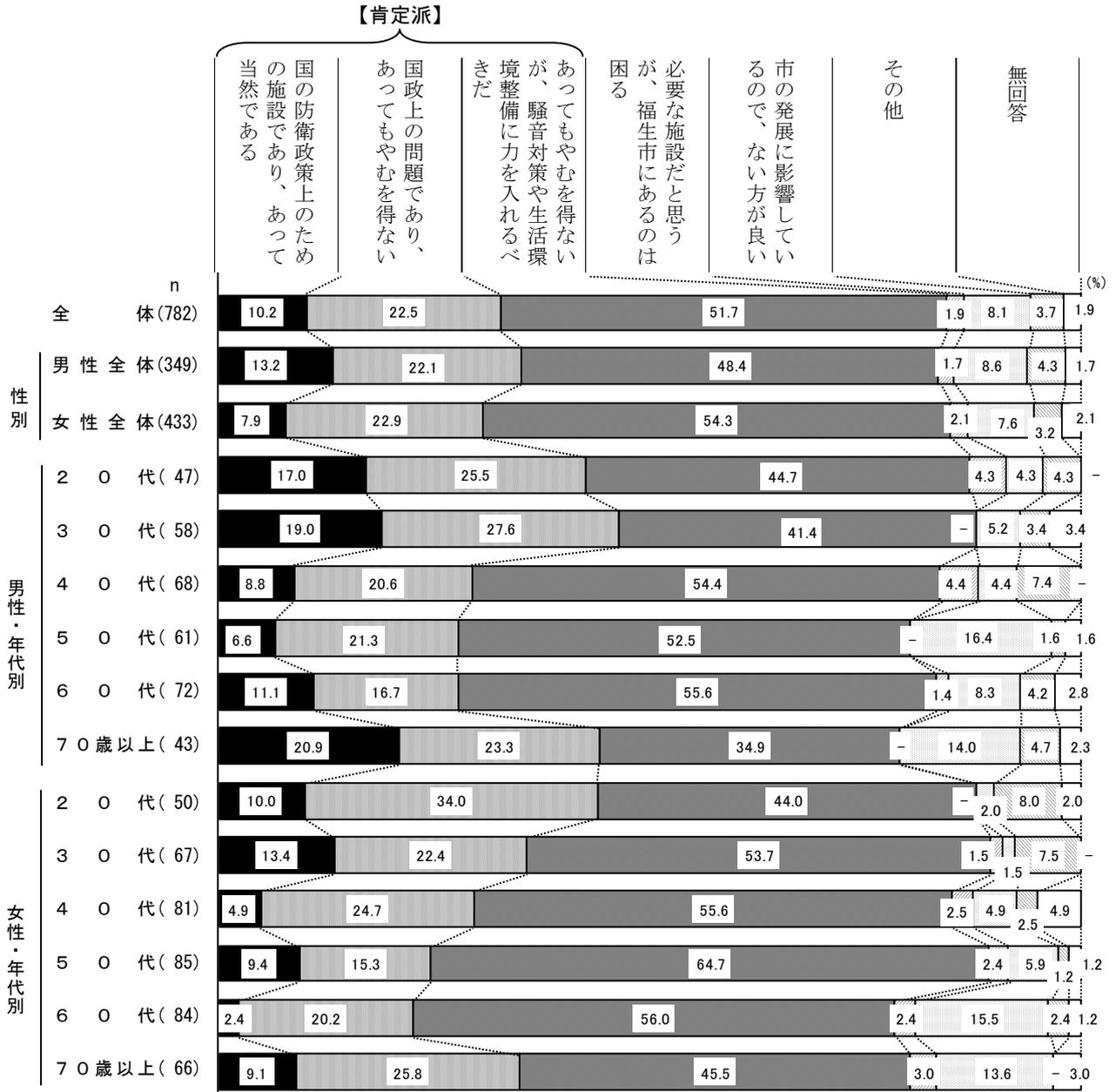
＜図表6-3＞横田基地の賛否／地域別



性別でみると、【肯定派】は、女性全体（85.1%）が男性全体（83.7%）を若干、上回っている。また、「あってもやむを得ないが、騒音対策や生活環境整備に力を入れるべきだ」でも、女性全体（54.3%）が男性全体（48.4%）を5.9ポイント上回っている。

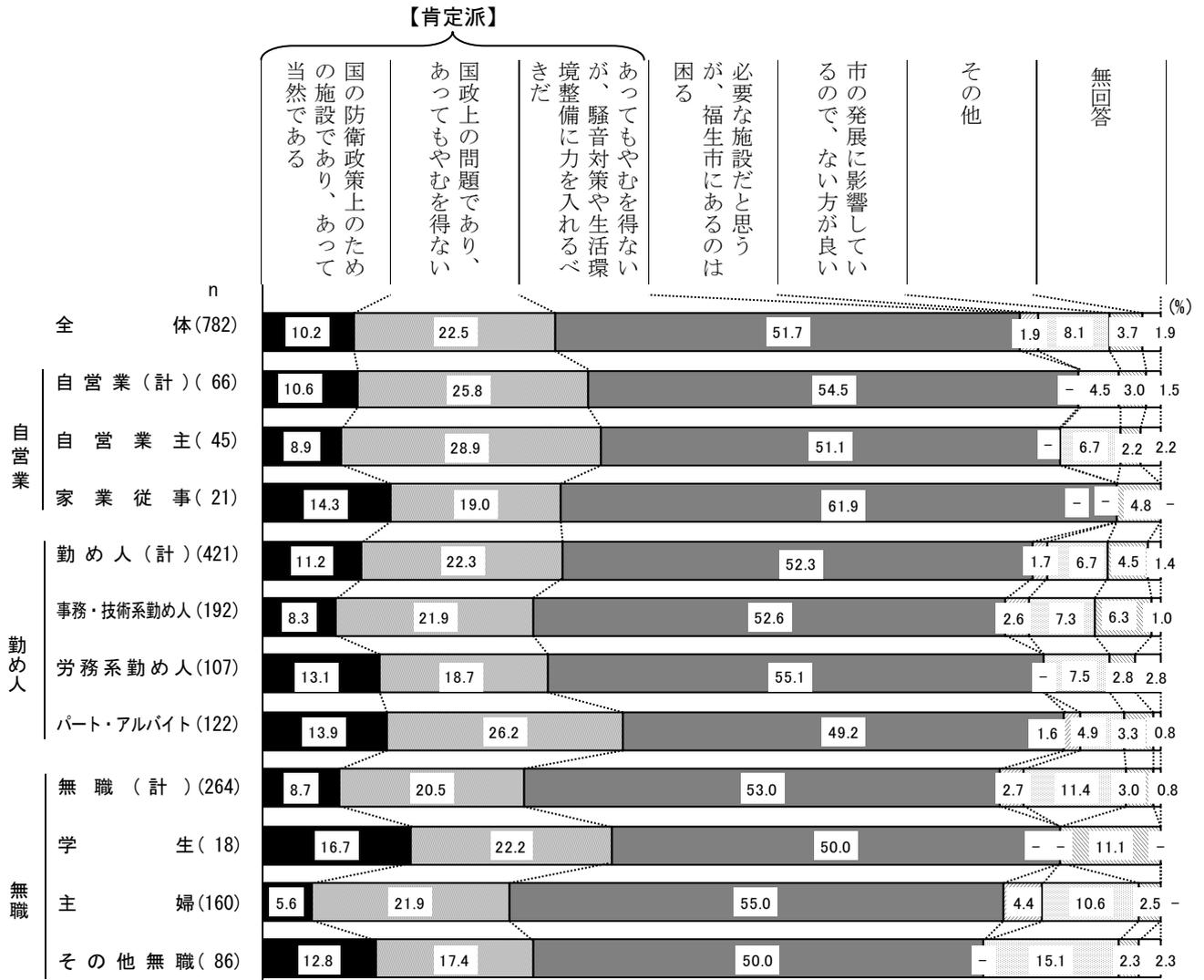
性・年代別でみると、【肯定派】は男性の70歳以上（79.1%）、女性の60代（78.6%）を除く全ての年代で8割以上となっており、女性の30代（89.5%）、50代（89.4%）で9割弱の高い割合を占めている。（図表6-4）

＜図表6-4＞横田基地の賛否／性別、性・年代別



職業別にみると、【肯定派】は全ての職業で8割以上となっており、家業従事（95.2%）が9割台半ばで最も高い。「市の発展に影響しているので、ない方がよい」は、その他無職（15.1%）で最も高くなっている。（図表6-5）

＜図表6-5＞横田基地の賛否／職業別

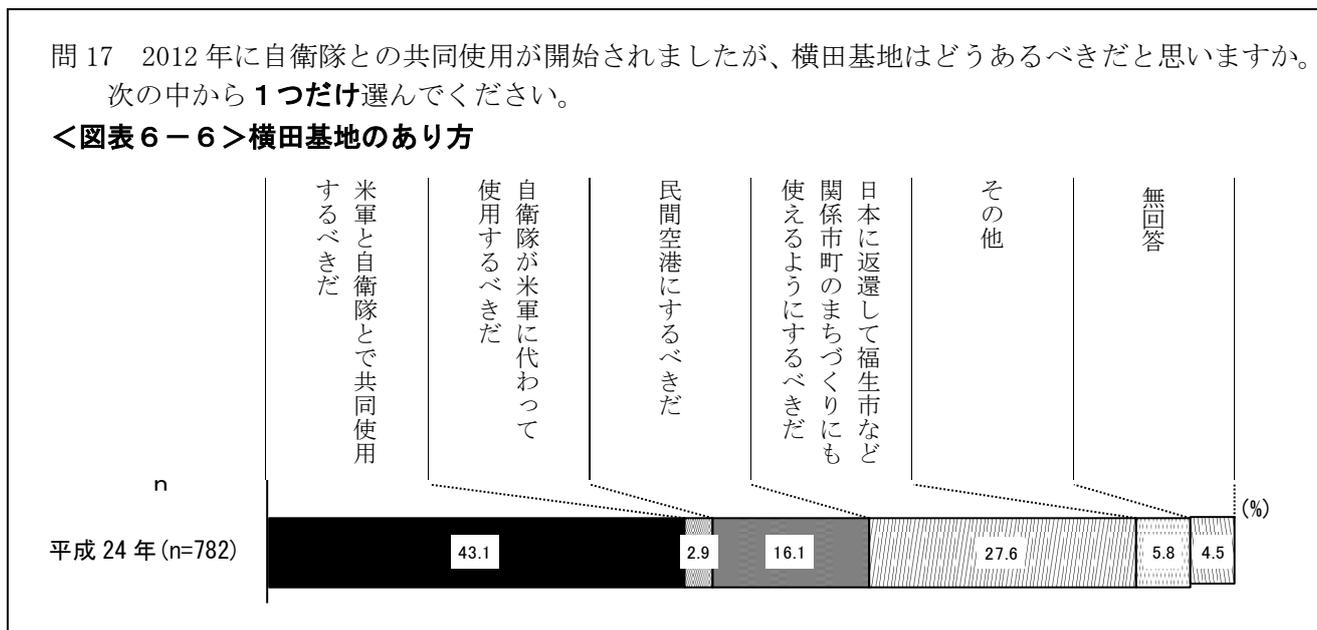


(2) 横田基地のあり方

◇「米軍と自衛隊とで共同使用すべきだ」が4割台半ば近く、「日本に返還して福生市など関係市町のまちづくりにも使えるようにすべきだ」が2割台半ばを超える

問 17 2012年に自衛隊との共同使用が開始されましたが、横田基地はどうあるべきだと思いますか。
次の中から**1つだけ**選んでください。

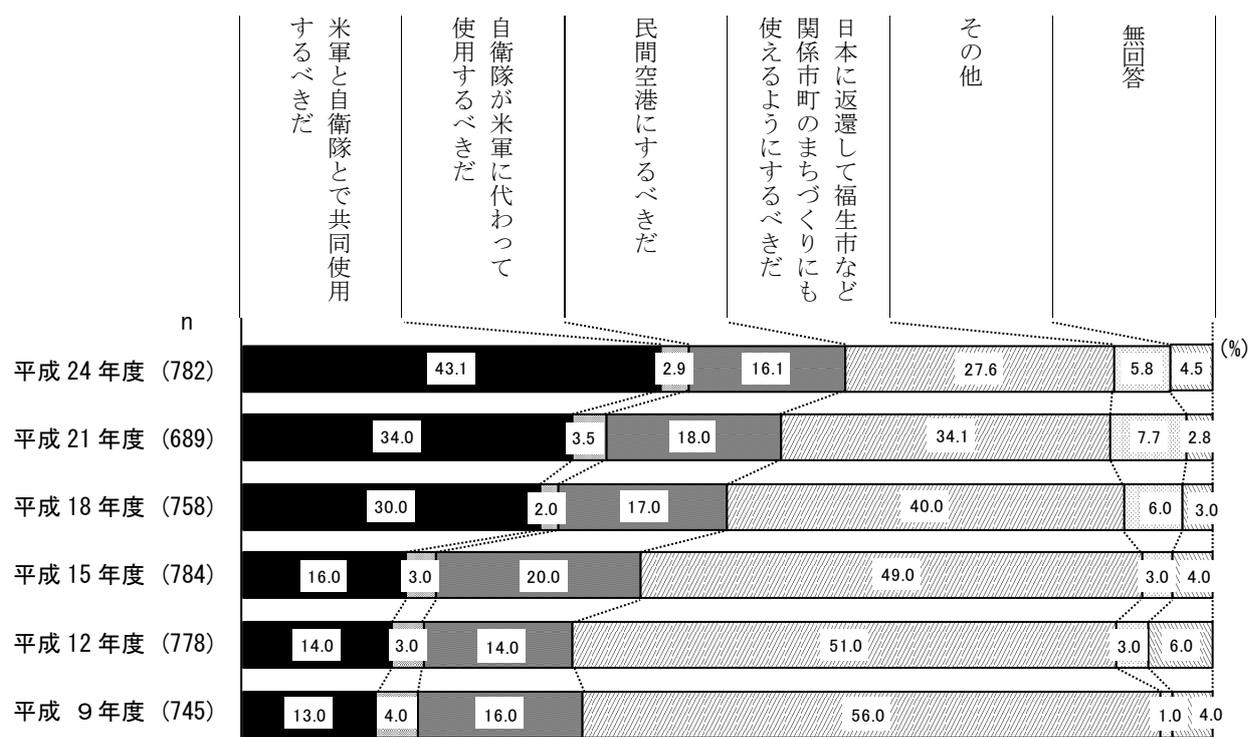
＜図表6-6＞横田基地のあり方



横田基地のあり方について尋ねたところ、「米軍と自衛隊とで共同使用すべきだ」(43.1%)が4割代半ば近くで最も高く、次いで「日本に返還して福生市など関係市町のまちづくりにも使えるようにすべきだ」(27.6%)が2割台半ばを超えている。(図表6-6)

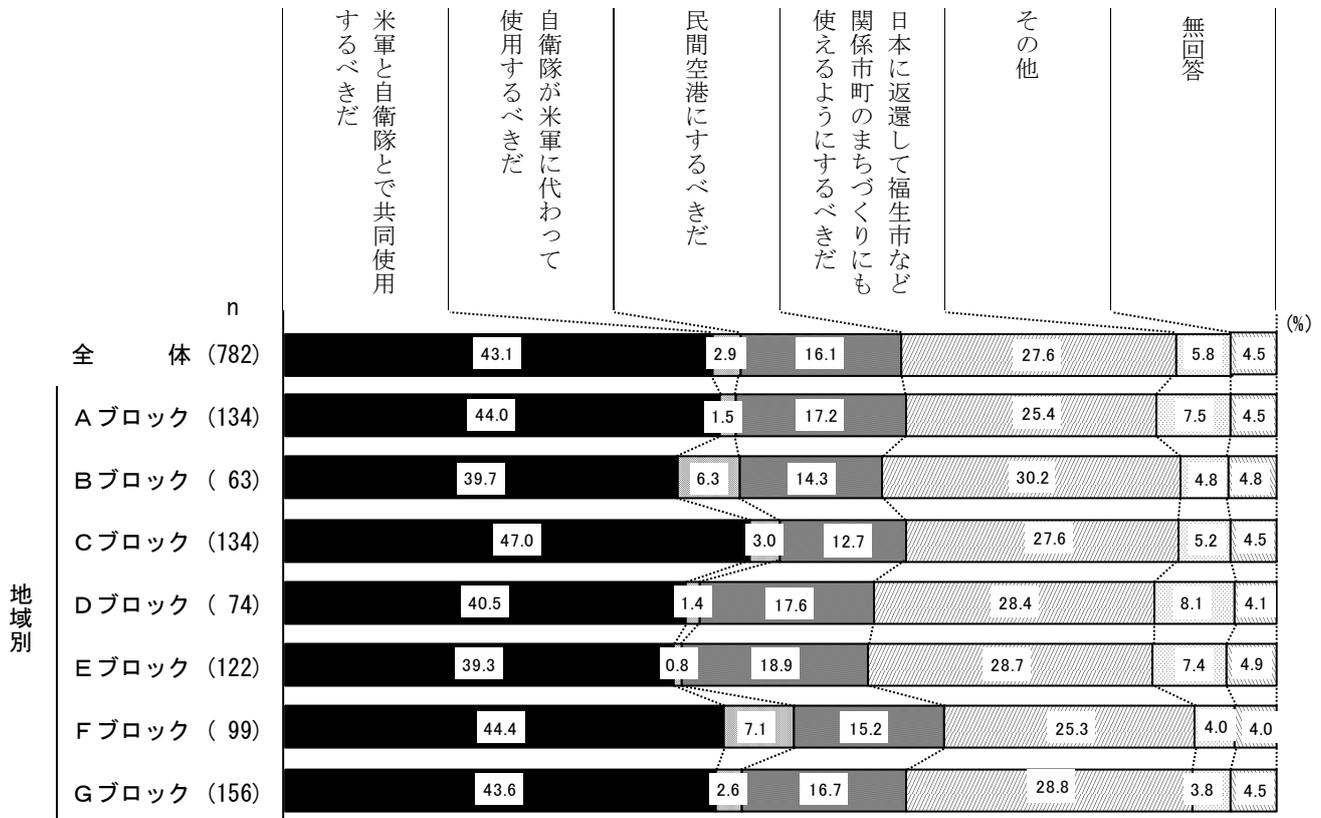
過年度調査の推移をみると、「日本に返還して福生市などの関係市町のまちづくりにも使えるようにすべきだ」の割合が減少し、「米軍と自衛隊とで共同使用すべきだ」が増加している。(図表6-7)

＜図表6-7＞横田基地のあり方／過年度推移



地域別でみると、「米軍と自衛隊とで共同使用するべきだ」はCブロック（47.0%）で最も高く、全ての地域で4割弱以上となっている。「日本に返還して福生市など関係市町のまちづくりにも使えるようにするべきだ」はBブロック（30.2%）を除く全ての地域で3割以下となっている。（図表6－8）

＜図表6－8＞横田基地のあり方／地域別



性別でみると、「民間空港にするべきだ」は男性全体（18.9%）が女性全体（13.9%）より5ポイント上回っている。

性・年代別でみると、「米軍と自衛隊とで共同使用するべきだ」は女性の20代（64.0%）が最も高く、次いで男性の30代（58.6%）、女性の30代（56.7%）の順となっており、それぞれ5割以上となっている。「日本に返還して福生市など関係市町のまちづくりにも使えるようにするべきだ」は男性の50代（47.5%）で最も高く、次いで女性の60代（41.7%）となっており、「民間空港にするべきだ」は男性の70歳以上（25.6%）で最も高く、2割台半ばとなっている。（図表6-9）

＜図表6-9＞横田基地のあり方／性別、性・年代別

